

平成5年度

帰国研修員フォローアップチーム報告書
—公開技術セミナー—

テレビジョン番組制作
テレビジョン社会教育番組II
テレビジョン放送技術
テレビジョン番組制作技術II

平成5年11月

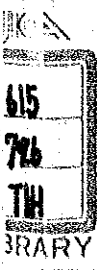
国際協力事業団
東京国際研修センター

平成5年度 帰国研修員フォローアップチーム報告書 —公開技術セミナー—

テレビジョン番組制作
テレビジョン放送技術
テレビジョン社会教育番組II
テレビジョン番組制作技術II

平成5年11月

国際協力事業団



東国セ
JR
93-511

平成5年度

帰国研修員フォローアップチーム報告書
—公開技術セミナー—

テレビジョン番組制作
テレビジョン社会教育番組II
テレビジョン放送技術
テレビジョン番組制作技術II

JICA LIBRARY



1118399131

平成5年11月

国際協力事業団
東京国際研修センター

国際協力事業団

27270

序 文

本報告書は、国際協力事業団が財団法人NHK放送研修センターの協力を得て実施している集団研修「テレビジョン番組制作」「テレビジョン社会教育番組II」「テレビジョン放送技術」「テレビジョン番組制作技術II」の4コース並びにその前身である「テレビ番組制作(総合)」「テレビ放送技術(基礎)」「テレビ放送技術(上級)」コースに参加した帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として、メキシコ及びチリの2ヶ国で開催された公開技術セミナーの内容及び帰国研修員、その所属先並びに関係機関等の訪問を通じ、上記研修コースの研修効果の確認、評価及び当該分野のニーズ調査に努めるべく、本年11月に派遣したフォローアップチームの調査結果を取りまとめたものである。

本書が、当該研修分野における各国の実情、帰国研修員の活動状況及び研修に係る要望について、関係各位の一層のご理解をいただくための一助となり、今後の研修員受入事業に資することができれば幸である。

なお、今回のセミナー開催及び調査業務に当たり、多大のご支援、ご協力を賜った外務省、郵政省、日本放送協会、財団法人NHK放送研修センター、在外公館、JICA派遣専門家、JICA帰国研修員同窓会ならびにその他関係者各位に対して心からお礼申し上げる次第である。

平成5年11月

国際協力事業団
東京国際研修センター
所長 田口定則

目 次

序 文

第I章 調査実施概要.....	1
1. 派遣目的.....	1
2. 分野、セミナー開催地、派遣期間.....	1
3. 団員構成.....	1
4. 派遣日程.....	2
5. 主要面会者.....	3
6. 対象研修コース概要.....	4
7. セミナー内容・予定表.....	5
8. セミナー参加者.....	6
第II章 公開技術セミナー実施報告.....	10
1. JICA事業概要説明.....	10
2. 日本における放送行政の最新の動向.....	10
3. 教育番組制作におけるハイビジョンの有効利用.....	13
4. テレビのデジタル化.....	14
第III章 当該分野の国別状況.....	15
1. メキシコ.....	15
(1) 概況.....	15
(2) テレビジョン放送分野の現状・課題.....	16
① 技術面.....	16
② 番組制作面.....	17
2. チリ.....	18
(1) 概況.....	18
(2) テレビジョン放送分野の現状・課題.....	21
① 技術面.....	21
② 番組制作面.....	21
第IV章 所見・総括.....	23
1. 所見.....	23
2. 総括.....	23
写真.....	27

第V章 質問表回答集計結果	29
1. 帰国研修員用質問表(全文)	29
2. 相手国関係機関用質問表	36
3. セミナー参加者用質問表	43
4. メキシコ国帰国研修員質問表回答集計結果	45
5. メキシコ国関係機関質問表回答集計結果	50
6. メキシコ国セミナー参加者質問表回答集計結果	56
7. チリ国帰国研修員質問表回答集計結果	65
8. チリ国関係機関質問表回答集計結果	70
9. チリ国セミナー参加者質問表回答集計結果	74
第VI章 添付資料	79
1. 帰国研修員名簿	79
2. 英文調査団概要	82
3. サマリー・レポート	85
4. セミナーテキスト類	102

第1章 調査実施概要

1. 派遣目的

本チームは、国際協力事業団が技術協力の1つとして実施している研修員受入事業のアフターケアの一環として派遣するものであり、集団研修の内、(財)NHK放送研修センターに実施を委託している「テレビジョン番組制作」「テレビジョン社会教育番組II」「テレビジョン放送技術」「テレビジョン番組制作技術II」の4コースに関し、メキシコ・チリ両国において帰国研修員及びその所属先並びに関連機関等を訪問、面談等を行い、また、現地でのセミナー開催等を通じ当該分野における最新の技術情報を広く関係者等に提供すると共に当該研修コースの成果・実施効果の調査、及び当該分野のニーズ把握に努め、以て、今後の当該分野の運営に資する事を目的とする。

2. 分野、セミナー開催地、派遣期間

分 野：テレビジョン番組制作／放送技術

開 催 地：メキシコ・シテイ(メキシコ)、サンチャゴ(チリ)

派遣期間：平成5年11月1日～11月18日(18日間)

3. 団員構成(< >内は業務担当分野)

- (1) 渡辺 正喜：郵政省放送行政局技術課音声放送係長<団長・総括>
- (2) 松田 義明：財団法人NHK放送研修センター事業本部チーフディレクター<番組制作関連技術指導>
- (3) 松岡 住夫：財団法人NHK放送研修センター事業本部チーフディレクター<放送技術関連技術指導>
- (4) 玉藤 美香：国際協力事業団東京国際研修センター研修第一課<企画・業務調整>

4. 派遣日程

月日	曜日	行程	調査内容
11/1	月	成田→メキシコ 17:45(JL 012) 17:25	(移動) JICA事務所打合せ
2	火		セミナー準備、通訳打合せ
3	水		CETE/UTE訪問、帰国研修員面談 TELEVISA訪問
4	木		公開セミナー<番組制作>
5	金		公開セミナー<放送技術> レセプション
6	土		資料整理、反省会
7	日		報告書作成
8	月	メキシコ→ 18:50(UC 431)	表敬報告:援助窓口機関・JICA事務所・大使館 (移動)
9	火	→サンチャゴ 09:20	(移動) JICA事務所打合せ、国営TV(7チャンネル)訪問
10	水		カトリカ大学放送局(13チャンネル)訪問、 会場準備
11	木		公開セミナー<番組制作> 帰国研修員面談
12	金		公開セミナー<放送技術> レセプション
13	土		資料整理、反省会
14	日		報告書作成
15	月	サンチャゴ→ 22:50	表敬報告:援助窓口機関・JICA事務所・大使館 (移動)
16	火	→ニューヨーク (UC 320) 09:15	(移動)
17	水	ニューヨーク→ 12:10	(移動)
18	木	→成田 (JL 005) 16:15	(移動)

5. 主要面会者

(1) メキシコ

- ① Centro De Entrenamiento De Television Educativa (CETE)
Mr. JOSE LUIS MARTINEZ : Deputy Director
Mr. KEI MIYAZAKI : JICA Expert (Project Leader)
- ② Unidad De Television Educativa (UTE)
Mr. PEDRO SABAU GARCIA : Director General
Mr. MARIO A. HERNANDEL MOCTEZUMA
: Special Secretary of the Director General
- ③ TELEVISA
Mr. ROBERTO PINEDA BONILLA: Engineer, VTR Department
- ④ Direction General De Cooperacion Tecnica Y Cientifica : Secretaria De Relaciones Exteriores
Ms. CRISTINA RUIZ RUIZ : Directora of countries
- ⑤ 在メキシコ日本大使館
柳澤 書記官
- ⑥ 在メキシコJICA事務所
斉藤 寛志 : 所長
松山 博文 : 所員

(2) チリ

- ① Television Nacional De Chile
Mr. JORGE NAVARRETE MARTINEZ : Executive Director
Mr. HECTOR NAVARRETE TAPIA : Member of Cabinet, Executive Director
Ms. IRIS FUENTES : Director of Production
Mr. JAIME R. ESCOBAR ABARCA : Chief, Department of Engineer
- ② Universidad Catolica De Chile
Mr. GABRIEL BRAVO LYON : Director of Television
Mr. RUBY ANNE GUMPERTZ S. : Director of Production

③ Agencia De Cooperacion Internacional (AGCI)

Ms. PAULINA SOTO S. : Unidad de Perfeccionamiento de Recursos
Humanos Y Becas

Ms. MARCIA FUENZALIDA O. : Encargada Unidad de Becas

Mr. RAUL VERGARA MANESES : Coordinator

④ 在チリ日本大使館

吉岡 書記官

⑤ 在チリJICA事務所

田臥 彰三：所長

高橋 満之：次長

6. 対象研修コース概要

(1) テレビジョン番組制作

テレビ番組制作に携わるプロデューサー及びディレクターを対象に、わが国の総合番組制作に関する知識及び技術を紹介し、開発途上諸国のテレビジョン放送技術の発展に貢献するとともに、わが国との有効親善の推進に寄与することを目的とする。

(2) テレビジョン社会教育番組II

教育テレビジョン番組制作に携わるプロデューサー及びディレクターを対象にNHKの教育テレビジョン番組制作に関する知識ならびに技法を紹介する。内容として、教育テレビジョン番組制作に焦点を合わせ研修を実施し、テレビジョンによる教育の重要性の再認識及び番組制作に必要な企画力・演出技法等の習得を目的とする。また、併せて、放送分野の最新技術、将来の展望についても紹介する。

(3) テレビジョン放送技術

開発途上国でテレビ放送分野に従事する技術者に対し、テレビ放送に関する知識及び技術を紹介し、もって、開発途上国におけるテレビ放送事業の人材養成に寄与することを目的とする。

(4) テレビジョン番組製作技術II

開発途上国でテレビ放送分野に従事し、基本的な技能を有する技術者に対し、その知識・技術をさらに高めるとともにテレビ放送に関する最新の知識及び技術を紹介し、もって開発途上国におけるテレビ放送事業の人材養成に寄与することを目的とする。

7. セミナー内容・予定表

日 順	講 義 題 目	講 義 概 要
第一日目	JICA事業概要説明 (担当:玉藤美香 団員)	1. JICA事業紹介(VIDEO) 2. JICA研修事業の紹介
	日本における放送行政の最新の動向 (担当:渡辺正喜 団長) *日本における放送行政の最新の動向について概観する。	1. 放送行政体制 2. 放送の概況 3. 多メディア・多チャンネル化の進展 4. 放送を通じた地域社会の振興への貢献 5. 放送を通じた国際化対策の推進 6. 放送技術の研究と標準方式の制定
	教育番組制作におけるハイビジョンの有効利用 (担当:松田義明 団員)	1. ハイビジョンの特性 2. ハイビジョンの教育的可能性
第二日目	テレビのデジタル化 (担当:松岡住夫 団員)	1. アナログからデジタル化するメリット 2. デジタル化するための課題 3. 放送機器のデジタル化の現状 4. デジタル化の将来

8. セミナー参加者

(1) メキシコ (Nov. 4~5, 1993)

- | | |
|------------------------------------|---|
| ① LUCIANO SAAVEDRA LECONA | XEIPN T. V. (CANAL 11)
JEFE DE DIVISION DE OPERACIONES
TECNICAS. |
| ② JORGE OJANGUREN ROMERO | C. E. T. E., JEFE DE CONTROL ESCOLAR. |
| ③ ERNESTO ORTEGA GARCIA | XEIPN T. V. (CANAL 11), JEFE DE TURNO
DE TRANSMISION. |
| ④ ALFONSO ARROYO C. | U. T. E. (UNIDAD DE TELEVISION
EDUCATIVA) |
| ⑤ PATRICIA RODRIGUEZ SOLIS | VIDEO OMEGA, S. A. |
| ⑥ RAUL GUTIERREZ MANZANILLA | C. E. T. E., DEPARTAMENTO DE DIFUSION |
| ⑦ ELBA JUAREZ MARTINEZ | UNIVERSIDAD UNIVERSITARIA
FACULTAD DE CIENCIAS POLITICAS Y
SOCIALES |
| ⑧ NEFTALI E. PENAFLOR VALDEZ | C. E. T. E. |
| ⑨ SERGIO A. VEGAR | RETAMA #84, TLALPAN |
| ⑩ CARLOS GARCIA QUIROZ | C. E. T. E., CONTRAPARTE DE INGENIERIA
EN MANTENIMIENTO |
| ⑪ MARTIN MANCERA AGUILAR | "EL UNIVERSAL" UNIVERSAL DE VIDEO |
| ⑫ ALMA GABRIELA NERY PEGO | C. E. T. E., JEFE DEL DEPARTAMENTO DE
CONTROL DE OPERACIONES
Y PROGRAMACION DE CURSOS |
| ⑬ XOCHIQUETZALLI MENDOZA
MOLINA | C. E. T. E., JEFE DEL DEPARTAMENTO DE
DISENO CURRICULAR |
| ⑭ ALFONSO RIZAGIL | COLOR CASSETTES, S. A. |
| ⑮ MARIO TORRES CORTES | U. T. E. |

⑩	ROBERTO PINEDA B.	TELEVISA, S. A.
⑪	DAVID ZAMUDIO ROSAS	U. T. E.
⑫	VALDEMAR LUGO N.	ANTONIO CASO #53, COL. TABACALERA
⑬	RICARDO VAZQUEZ	GOBIERNO DEL ESTADO DE TLAXCALA
⑭	LABRA ROMERO	REPRESENTANTE DE ASEMEJA
⑮	GJUMLICH COLLEJO	PRESIDENTE DE ASEMEJA
⑯	KARLA MENDEZ GARCIA	REPRESENTANTE DE LA ESCUELA PARTICULAR PERIODISMO Y ARTE EN RADIO Y TELEVISION
⑰	MOISES GARCIA	REPRESENTANTE DE LA ESCUELA PARTICULAR PERIODISMO Y ARTE EN RADIO Y TELEVISION
⑱	ROSARIO RAMOS CAMPOS	XHGV-TELEVISION DE VERACRUZ, CANAL 4+ JALAPA, VERACRUZ
⑲	GERARDO GARCIA GUZMAN	U. T. E., C. E. T. E.
⑳	LAURA PRIANTI CANTON	C. E. T. E.
㉑	RODOLFO AYALA CRUZ	C. E. T. E.
㉒	MARCO VINICIO AMOV	U. T. E.
㉓	IVETTE BUTRON GARDIDA	U. T. E.
㉔	PEDRO PANTOJA ROMERO	COLOR CASSETTES S. A.
㉕	MIGUEL TREJO MEDINA	COLOR CASSETTES S. A.
㉖	LUZ LOPEZ VERGARA	T. V. UNAM PRODUCTOR REALIZADOR
㉗	FRANCISCO YEDRA I.	TELEVIDEO CULTURAL
㉘	PATRICIA VENEGAS RUIZ	UNIVERSIDAD IBEROAMERICANA

35	MANUEL GARCIA TORRES	ESTRATEGIAS CREATIVAS
36	EDITH ORDAZ PALACIOS	UNIVERSIDAD LATINOAMERICANA ULA
37	MANTZA IBANEZ PORRAS	VIDEO OMEGA., S. A.
38	JAVIER ESPINOSA JIMENEZ	TELEVISA, S. A. DE C. V.
39	ARMANDO GARCIA	UNAM FACULTAD DE CIENCIAS POLITICAS Y SOCIALES
40	GERARDO MARTINEZ CORCHADO	DIRECTOR DE INGENIERIA DE J. T. E.
41	MARIO HERNANDEZ MOCTEZUMA	DIRECCION GENERAL DE U. T. E.
42	ROBERTO V. DE LEON FERNANDEZ	OPERADORA DE SUPERAMAS, S. A.
43	MARIA LUTSA SANCHEZ	COORDINADORA DE PRODUCCION, U. T. E.
44	APARICIO TAVAREZ MARIO	SUBDIRECCION DE REALIZACION U. T. E.
45	SHINICHI FUNAYAMA	EXPERTO DE PRODUCCION EN EL C. E. T. E.
46	ARIEL TELLEZ DELA PARRA	PEIMEC SACR, DIRECTOR GENERAL
47	HÉCTAR CELAYA	CONTRAPORTE DE INGENIENÁ CETE
48	ERENDIRA TAPIA	COORDINADORA DE PRODOCCION
49	VICENTE E. MARTINEZ	VIDEO OMEGA ING-DE SERVICIO
50	J. LUIS BERRERA CONTRERAS	VIDEO OMEGA ING-DE SERVICIO
51	JOSE ISOBEL AGOLYZ GOLLO	VIDEO OMEGA ING-DE SERVICIO
52	ING FRANCISCO YEDRA JIMENEZ	DIRECTOR TECNICO, TELEVIDEO CULTURAL
53	EDITH OIDAZ PALACIOS	ULA UNIVERSIDAD LUTINOAMERICANA
54	LUZ LÓPEZ VEGARA	TVUNAM

(2) チリ (Nov. 11 ~ 12. 1993)

- | | |
|---------------------|--|
| ① PATRICIO DEL RIO | ASIST. CAMERA ESTUDIO |
| ② JULIO SENORET R. | JEFE SECC. VIDEO CANAL 13 TV. |
| ③ JORGE BASCUR | JEFE DE PROGRAMACION, CENTRO DE TELEVISION EDUCATIVA, UNIVERSIDAD AUSTRAL DE CHILE |
| ④ RAFAEL UNDURRAGA | GERENTE GENERAL SEIL. S. A. |
| ⑤ ORIEL ZEPEDA | SUPERVISOR TECNICO, TELEVISION NACIONAL DE CHILE |
| ⑥ OSCAR PAMUSS | SUPERVISOR TECNICO, TELEVISION NACIONAL DE CHILE |
| ⑦ ALBERTO ARAYA | JEFE DE DEPTO. DE MANTENCION, CANAL 13 TV. |
| ⑧ OSCAR ARAYA | CAMAROGRAFO, TELEVISION NACIONAL DE CHILE |
| ⑨ MARCELO ZAPATA A. | INGENIERO MINISTERIO TRASPORTES Y TELECOM. (SUBTEL) TV. VHF-UHF |
| ⑩ IRIS FUENTES | DIRECTORA DE PROGRAMAS, TELEVISION NACIONAL DE CHILE |
| ⑪ FRANCISCO SLAZAR | DIRECTOR CENTRO TELEVISION, UNIVERSIDAD AUSTRAL DE CHILE |
| ⑫ EDMUNDO VIDAL | DIRECTOR Y PRODUCTOR, CENTRO TV. UNIV. AUSTRAL DE CHILE |

第II章 公開技術セミナー実施報告

1. JICA事業概要説明

- ① "JICA 24時間(西語版)" 放映
- ② JICA研修員受入事業紹介(別添資料)
- ③ テレビジョン分野集団研修の紹介

メキシコ、チリ両国において、ビデオ・OHP等を通じたJICA事業概要の紹介、特に研修員受入事業の紹介を行った。

2. 日本における放送行政の最新の動向

(1) セミナー内容

我が国では、1953年のテレビ放送開始から40年、いま高度情報化時代の到来の中にあって新しい放送ニューメディアが花開こうとしている。このような状況の中で、放送行政は大きく動きつつある。

放送が国民にあまねく普及されて、その豊かな効用をもたらすようにすることが放送製作の重要課題の一つである。

今回の公開技術セミナーでは、日本における放送行政の最新の動向について、次の四つの主要テーマをベースに紹介した。

- ① 多メディア、多チャンネル化の進展
- ② 放送を通じた地域社会の振興への貢献
- ③ 放送を通じた国際化対策の推進
- ④ 放送技術の研究と標準方式の制定

(2) 講演要旨

① 放送行政体制

主官庁：郵政省(放送行政局)

放送のデジタル化への組織的対応

放送の自主性と規律等

② 放送の概況

(7) 放送体制

NHKと民放の併存体制、電波法・放送法等

(1) NHK、民放、放送大学

放送事業者数、放送局数

③ 多メディア、多チャンネル化の進展

(7) 衛星放送の新展開

BS放送、CS放送、ポストBS-3等

(1) ハイビジョンの普及・推進

情報社会の中核となる先進的メディア

試験放送、ハイビジョンの日、ハイビジョンシティ構想等

(9) ケーブルテレビの発達・普及

放送の補完メディア→高度情報社会における地域情報化のための推進役

CATV施設数、加入世帯数等

(1) 放送ソフトの充実

放送ニューメディアの実用化→放送ソフトの質的、量的な不足

映像ソフト交流促進施設整備事業

有線テレビジョン放送番組充実事業

視聴覚障害者向け放送番組(字幕放送、解説放送)に対する助成等

④ 放送を通じた地域社会の振興への貢献

(7) 民間テレビジョン放送の多局化

(1) 民間FM放送の全国普及

- (ウ) 衛星放送受信対策基金
- (エ) 電気通信格差是正事業
- (オ) コミュニティ放送

⑤ 放送を通じた国際化対策の推進

- (ア) 短波放送による国際放送
国際放送の役割の増大、海外中継局(中南米向けのギアナ中継局)
- (イ) 放送番組の国際交流の促進
海外提供の現状と問題点→番組交流の支援体制の整備
(財)放送番組国際交流センターの設立
- (ウ) 映像国際放送への対応
ヨーロッパとアジアの現状、我が国の対応

⑥ 放送技術の研究と標準方式の制定

- (ア) 放送技術の開発動向
放送メディアの二つの側面：サービスの多様化、品質の向上
第二世代EDTV、放送衛星によるデータ放送、広帯域HDTV、
FM多重放送、FM同期放送、光ファイバー・ケーブルテレビ等
- (イ) 放送の国際標準化と国内規格
国際標準化に関する組織、放送技術開発協議会における反応
- (ウ) 放送のデジタル化
DAB、テレビのデジタル化

(3) セミナー資料

テキスト：「PRINCIPALS POLITICAS DEL GONIERNO JAPONES EN
MATERIA DE DIFUSION」放送行政の政策課題(西文27頁)

(4) セミナーの実施状況と成果

講演は、メキシコ、チリとも通訳を介し、日本語→西語で実施した。
セミナー出席者は、ほとんどが放送局側の関係者であったため、我が国の
放送行政に関する講演は当該国と我が国との放送行政・政策の違いやおかれ

た立場の違いなどから難しい面もあったと思われるが、聴講態度は全体的に非常に熱心であり、放送分野における意気込み、熱意が伺われた。

なお、講演の中で最近の我が国の規制緩和の動向について言及したところ、「放送ニューメディアが多種出現してくる状況の中で、海賊放送等に対しての規制を緩和するのか、どのように対処していくのか」との質問があり、一口に規制緩和といっても行政にはいろいろな側面があり、必ずしも全てに当てはまるわけではないと改めて考えさせられ、印象的であった。

3. 教育番組制作におけるハイビジョンの有効利用

(1) 講演内容

- ① 5年前、中学校の教室にハイビジョンを持ち込み中学生の反応を探った実験
- ② ハイビジョンの特性と教育番組への可能性
- ③ ハイビジョンの歴史と利用状況
- ④ 学校放送への利用の状況と効果
- ⑤ 平成5年10月、全国大会で行われたハイビジョンによるマルチメディアと双方向教育の実験

(2) セミナーの実施状況と成果

上記について、NHK学校放送制作のハイビジョン番組「待ちぶせ～驚異の食虫植物」「人と森林」「歴史に見つけた～天下の町人」を一部試写しつつ話を進めた。

メキシコでは、巨大民放Televisa s. a.からハイビジョンのユニハイセットを借用し、上記番組をハイビジョンで見せることができ、非常に効果的であった。チリではVHS(現行テレビ方式)で見せたがSONYの協力でハイビジョンのレーザーディスクでのデモテープを使って、ハイビジョンの特性を見せることができた。

出席者は大変強い関心と熱心さで聴講していた。その後の質疑応答では質問攻めに合い、予定時間をオーバーしてやむなく終講するという状況であった。

4. テレビのデジタル化

(1) セミナー内容

テレビにおける技術革新は大変急速なものがある。その中でも最近特に脚光を浴びているのがデジタル技術化であり、今、世界中のテレビ局はこの新技術の導入に向けて大きく動いている。しかし、開発途上国では、この新技術が余りに高度であるために、どう対応したらよいのか困惑しているのが現状である。

今、セミナーにおいては、この新技術について更に理解を深め、各国のテレビ技術の近代化の推進に役立つようにテーマ、内容を設定した。

講演した内容の要旨は次のようなものである。

- ① デジタル化を要求される背景
- ② デジタル化するメリット
- ③ デジタル化するための障害、問題点
- ④ デジタル化機器開発の現状
- ⑤ デジタル化の将来

(2) セミナーの実施状況と成果

聴講者の反応は、聴講者の約1/3が非技術系であったので、難しいニューテクノロジーの話ではあるが少しでも理解してもらえるように、出来るだけ噛み砕いて説明したこともあって、ほとんどの聴講者にその新技術の概要と必要性が理解されたものと思われる。

質疑応答も大変活発で、予定時間をオーバーするほどであった。

第三章 当該分野の国別状況

I. メキシコ

(1) 概況

メキシコ(シティ)においては、以下の4つのテレビ局が所有している8つのチャンネルが受信可能である。

テレビ局	チャンネル
TELEVISA S. A. *a	CH2 *c, CH4 *d, CH5 *e, CH9 *f
XEIPN TELEVISION(カナル オンセ)	CH11
テレビシオン アステカ	CH7, CH13
メキシコ文化・芸術院	CH22

その他、メキシコ(シティ)では通信衛星を利用したCATVが多チャンネル放送サービスを行っている。

JICAプロジェクト：メキシコには、JICAの教育テレビ研修センタープロジェクトが入っており、CETE(教育テレビ訓練センター)においてUTE *b 職員等の研修、教育に当たっている。

a...TELEVISA：メキシコ最大の民放

現在4つのチャンネルを保有、従業員約20000人、国内中継局20局、海外にも放送局を所有。

b...UTE：メキシコには、一般の中学校、技術中学校と並んでテレビ中学校があり、全国に約9000校、30000学級、26000人の教員がいる。生徒数は約518000人。

このテレビ中学校は、首都圏／都市部以外の地方／農村部における教育システムとして25年前から開始されている。UTEは、テレビ中学校の為の番組を制作、放送衛星を通じて放送を行う教育庁管轄の機関である。

月曜日～金曜日迄毎朝7時30分～午後1時48分迄、中学1年生から3年生を対象に各教科番組が20枠放送されている。午後1時48分～6時30分迄は、教員向け等の教育番組が9枠放送されている。

c... チャンネル2

モレロス衛星(通信衛星)を利用して全国ネットで放送。ニュース番組を中心に24時間放送。海外(米国/中南米)にも放送している。

d... チャンネル4

首都圏放送。音楽/スポーツ番組中心。毎日朝7時から深夜2時迄の19時間放送。

e... チャンネル5

モレロス衛星を使用。米国から輸入したドラマ中心の娯楽番組を放送。毎日午前10時から15～16時間放送。

f... チャンネル9

首都圏のみ。教育/文化番組中心。毎日朝8時から17時間放送、うち朝8時から午後2時までの6時間は、UTE制作の学校放送番組を放送。

(2) テレビジョン放送分野の現状・課題

① 技術面

メキシコのテレビ技術の平均的なレベルは、日本と比べれば約10年位の遅れを感じるものの、他の中南米諸国と比べると、トップクラスにあると言える。中でも、メキシコシティーにある巨大民放局「テレビッサ」の技術力は、他のメキシコのテレビ局と比べても図抜けたものがある。この背景には、このテレビ局は単にひとつのテレビ局にとどまらず、メキシコ中の多くの有力企業を傘下に抱えた大企業体であり、その潤沢な資本力をバックに新技術の導入にも積極的であることによるものと思われる。

テレビ技術者は一般的に、工科大学を卒業したインヘネロ(エンジニア)と呼ばれる高級技術者と、テクニコ(テクニシャン)と呼ばれるオペレーター

に分けられている。しかしそのいずれもが、テレビ技術の専門技術については基礎から十分に養成されたものではなく、テレビ局に就職後、現場でその技術を見よう見まねで覚えたものが多い。したがって、基本原理についての理解不足から、応用力が不足している。こうした現状を改善するために、これらの放送技術者をも対象にして、メキシコシティには、日本の援助で設立された「教育テレビ訓練センター(CETE)」があり現在活発な人材育成が進んでいる。この施設は、最新の設備を持ち、また、日本からの派遣専門家の指導を受けて、将来を任せられるような何人かの優秀な指導者も育ててきている。現在はメキシコ国内だけを対象にしてテレビ要員の育成をしているが、近い将来にはその対象範囲を広く中南米全般に広げる計画を持っており、大いに期待が持てる。

② 番組制作面

(7) TELEVISA(サンアンヘル局)

11のスタジオを有し中にはラテンアメリカ最大(1320m²)のスタジオもある。テレビドラマ番組85%、ユニット番組(音楽・芸能・バラエティー・コメディ等)15%、その他若干の社会的テーマの座談番組・ルポルタージュ番組がある。

外観は、かまぼこ屋根のスタジオが建ち並ぶ映画制作所風である。視察した印象としては一口で言って正にテレビドラマの大量生産所、それも概ね二流ドラマの大量生産所と言った所である。

スタジオの設備も不十分であり、照明器具についても粗雑な印象を受ける。スタジオフロアも平坦ではなく汚れも目立ち、映画会社を買取、急ごしらえにテレビスタジオにし、テレビドラマを大量生産しているように思われる。

ドラマ中心の芸能一辺倒に見える番組内容については、商業ベースで営業している以上最も人気のあるドラマ等芸能番組に力を入れざるをえないとの事である。

TELEVISAは嘗て1992年4月開始を目指し12GHz帯の地上波を用いたHDTVサービスの実用化を計画したこともあり、ニューメディアへの関心は強い。

巨大民放としての資力を持って優秀なスタッフも抱えており、新分野開拓への可能性は高く、営業的に必要かつ採算が取れるとなれば実施する力はあるものと思われる。

(4) UTE

約10人の番組ディレクターの内90%はフリーランスである。多くの番組を制作している施設として10人は少なく、安定した人数が必要である。

UTEに限らず政府機関の多くに言える事だが、6年毎の大統領選に伴って管理職が大幅に入れ替わる事態が起こり、組織面・人的継続性の点で不安定である。

フリーランスが多いことも一部上記理由によるが、いずれにしろ人材の質的向上、ひいては番組の質的向上の障害になっている。

1991年から新しい番組ソフトが登場し内容が以前に比べ比較的豊かになったと言うことであるが実体は依然充分とは言えず、UTEの研修施設として、JICA援助の入っているCETEによる研修、教育がさらに必要と思われる。

2. チリ

(1) 概況

チリのテレビ放送局には主に以下の3種類がある。

- ① 公営放送局：1局 "Televisión Nacional de Chile"：「TVnc」7ch
- ② 大学に所属している放送局：4局
 - (a) "Corporación de Televisión de la Universidad Chile"：「RTU」11ch
 - (b) "Corporación de Televisión, Universidad Católica de Chile"：「TVuc」13ch
 - (c) "Corporación de Televisión Universidad Católica de Valparaíso"：「UCV」5ch
 - (d) "Corporación de Televisión Universidad Australia"
- ③ 商業放送局：2局
 - (a) "Megavision"
 - (b) "La Red"

その他サンチャゴではCATVが16チャンネル視聴できる。また、地方大学がその地域だけの小さなエリアの放送局を経営しているケースもある。

チリの放送制度では公的な負担制度としての受信料制度は取られておらず、テレビ局の主要な財源はコマーシャル収入であり、国営テレビも含め、コマーシャル放送が行われている。

民放局のなかで最も有力なテレビ局がTVuc、チリ・カトリック大学テレビ(13ch)であり、国営テレビと視聴率等においてしのぎを削っている。

④ チリにおける放送番組の内容規制

憲法は言論の自由を保障し、放送法に関しては不偏不党を述べているだけである。従って放送以前のチェック・規制は行われていない。

但し、以下の場合「特別TV委員会」が介入する。

(ポルノ及び極端な暴力の表現や、夜10時以前にタバコ・お酒の宣伝を行った場合。)

* 「特別TV委員会」は本年9月、画面の隅にF・R・Aのスーパー表示を許可した。

F：家庭で誰もがみられる番組。

R：各家庭において子供に見せるか否か判断する。

A：成人向け番組。

上記いずれを番組にスーパーするかについては、各放送局の自主的判断に任されている。

⑤ 代表的放送局の概要

① TVnc (Televisión Nacional de Chile)

朝6:30から翌朝2:00まで、19.5時間放送。放送番組の50%が国内生産で大部分がTVncの下で制作されている。国営テレビ局ではあるが政府からは独立した立場にあり3権のいずれにも属さない。

その放送エリアは全国のほぼ98%をカバーしている。また、衛星中継によって南米8ヶ国に放送を行っている。

他局にはあまり見られない、教養・文化番組を放送している。(教育番組に関しては、TVucのTELEDUCが制作・放送を行っている。)

- <例>
1. 文学解説番組
 2. 美術・建築・映画・ビデオ等の解説番組
 3. ドキュメント番組
 4. 朝の教養番組
 5. 農村の社会的向上、農業技術向上を目指した農村向け番組
 6. エコロジーを取り上げた番組「私達の生きている大地」

② TVuc (Corporacion de Television, Universidad Catolica de Chile)

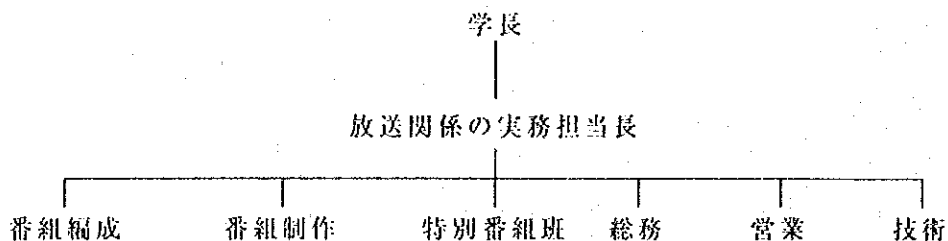
朝9:00から翌朝3:00まで、18時間放送。主にコマーシャル収入による独立採算制。34年の歴史を誇り、常に高視聴率を上げているとの自負がある。

85局の中継局を有し、大半はマイクロ回線でカバー、最南端のみ光ファイバーを用いている。トータルでは全国の96%をカバーしている。

放送のうち50%は自主制作の国産番組、残り50%は海外(主に北米)からの輸入(映画)。国営TVと商業放送局との間で、大学としての独自性を出そうとしており、カトリック(教皇庁立カトリック)大学として、教義に逆らう事のない番組を制作。

- <例>
1. 教養番組：「TELEDUC」制作の遠隔地教育TV番組
 2. ニュース・情報番組
 3. 娯楽番組
 4. 大学の広告

"組織"；職員数 約800名



(2) テレビジョン放送分野の現状・課題

① 技術面

チリのテレビ技術レベルもメキシコと同様相当のものがある。この背景にあるものは、チリが白人国家で教育レベルが他のラテン国と比べて高いこと、国営テレビ、民放テレビ間にそれほどのレベル差がなく、ライバルとしての競争関係があることから、互いに技術力を競い合っている等の理由がある。しかし一方では、首都圏と地方では技術力の格差も大きく、また、人材育成の面でも、特別な施設や制度があるわけでもなく、テレビ分野の急速な技術革新を考えると問題が多い。

② 番組制作面

チリにおいて教育を直接目的とした番組は、13chの朝9:15から10:15まで放送されている「TELEDUC」である。「TVuc」内において、カトリック大学と提携し、大学の先生がカリキュラム作成に協力し、教育番組を制作している。

現在実施されているのは学校放送ではなく職業教育の放送である。

1988年-91年の間、JICAのチリ教育テレビプログラムプロジェクトは、この「TELEDUC」を対象に行われた。

(7) 1985年-1992年の学校放送

4.4.4.制の学校教育のうち、8才から13才までを対象に学校授業の補足を目的として学校時間に合わせた学校放送番組が制作された。

試験的に、各学校にモニターを設置、活用を試みたが、現在は文部省との協力を終了し、実施されていない。

(1) 現在の教育放送

以下の3種類の職業教育放送を行っている。

① MECE

- * 文部省との協力の下、先生を対象としたコース
- * 1コース3ヵ月、12章よりなる
- * 毎週1章(30分)が放送され、再放送も行われる

- * 1コース終了後、次の上のコースへ進む
- * 6ヵ月の間に14コースが放送される
- * 全体の流れとしては以下の通り
 1. テキスト配布－ベースとなる
 2. 放 送－テキスト以外の部分を補足
 3. 試 験－通信による試験を2回、大学(全国16箇所)において監督官の下、筆記試験を1回。計3回。
 4. タイトル取得－試験合格後、タイトルを取得。履歴として登録でき、上級への資格を得る。

⑧ FOSIS

建設省との協力の下、住居環境の向上の為、「地域住民の社会的意識の向上」「地域住民の経済的向上」の番組を制作。ミクロ企業促進を計る教育番組である。FOSISという総理府直轄の僻地開発基金が聴講費用を負担。

⑨ 区援助の下、地域住民の向上を目的とした教育放送。

(ウ) 収入

聴講生からの聴講費用。"Endesa"(国営の電力開発公社)が「TELEDUC」全体のスポンサーとなっており、一部援助している。

(エ) ポストプロ

JICAのプロジェクト期間中の援助でCG(コンピューターグラフィックス)の技術向上が計られ、番組のタイトル・内容に生かされている。

第IV章 所見・総括

1. 所見

メキシコ・チリ両国の訪問を通じ、両国が如何にTV放送分野の発展を重視しているかが実感できた。特に、メキシコ政府においては現在、CETEの機能を更に発展させ制作・技術分野のUTEを越えた広がり而努力しており、将来的には第三国研修の中南米における拠点となることを目指している。このような背景のもと、基礎技術については十分に知識を有し、より高度で専門的な研修への要望の強い両国の研修員の当該4コースへの参加を考えると、ジェネラルなコースとして位置付けられている2コースについては既に卒業したと言えるように思う。さらに、言葉の点からも積極的に第三国研修を進めて行く方がより効果的であると考ええる。

また、帰国研修員の間から、NHKによる手法をもとにした制作と技術を分けた研修方法に対し、番組制作担当者も技術的な知識は必要であるとの意見が聞かれた。ある面では特殊な日本の手法を紹介する現在の研修方法の限界が此処にあるように思われる。本邦研修(NHKによる研修/メーカーによる研修)と、第三国研修のより効果的な組み合わせを考える必要がある。将来的には、技術研修については第三国研修を活用し、日本の最新技術手法を紹介する研修が本邦で行われて行く方向が有効であるように思われる。

2. 総括

① メキシコ

メキシコにおけるテレビ放送局は、国際的にも有数の商業TV局である「テレビサ」、文部省教育庁と国立工科大学が経営する「チャンネル11(XEIPN Television Canal 11)」、これまでの国営(メキシコ内務省)TV局イメビシオンが今年民営化されてできた「テレビシオンアステカ」及び「チャンネル22」(メキシコ文化・芸術院経営)がある。

このほか、テレビ中学校のための番組ソフトを制作し、DBS(放送衛星)を使い放送を行う文部省テレビジョン教育局(UTE)管轄の施設がある。

メキシコのテレビ技術の平均的レベルは、日本と比べ約10年位の遅れが感じられるが、他の中南米諸国と比べるとトップクラスにあるといえる。メキ

シコのテレビ技術者は、現場で見よう見まねで覚えた者が多く、応用力の不足とともに、新技術に対する経験不足等の状況にある。

また、メキシコにおいては、番組制作面においても、全体的に、制作施設や設備とも十分とは言い難く、新しい番組制作手法等の導入についても全く不十分な状態にある。

こうした状況を改善するため、メキシコには、日本の援助(JICAプロジェクト)で1991年、人材育成の拠点となる「教育テレビ訓練センター(CETE)」が設立され、現在活発な訓練・研修が進められている。CETEにおいては、現在のメキシコ国内を対象とした研修から、近い将来、中南米全域を対象とした第3国研修を実施する計画もあり、CETEは、放送分野の人材育成に一層大きな役割と期待を担っているといえる。

今回のメキシコにおけるフォローアップセミナーには、主にUTE、CETE等の関係者から37名の参加があった。教育番組制作におけるハイビジョンの有効利用、テレビのデジタル化等テレビ番組制作の新しい手法やこれからのテレビ放送のあり方を示唆した本セミナーは、その内容はもちろんのこと、実際にハイビジョン映像を見せたり、分かりやすい説明を行うなど趣向をこらした講演であったため、放送の実務に携わるセミナー参加者に好評であり、参加者は非常に熱心に聴き入り、また時間もオーバーするほど活発な質疑応答がなされた。

JICA帰国研修員との面談(参加者16名)においては、長時間にわたり、熱心・活発に、かつ真摯な態度でいろいろな意見が述べられた。日本における研修のカリキュラム内容、研修員の送り出し側の人選の問題及び第3国研修に対する期待などなどJICA帰国研修員の意見は、貴重かつ有意義なものであった。

今回のフォローアップ調査では、メキシコ外務省(Cristina Ruiz Ruizaアジア局長)及び在メキシコ日本国大使館(柳沢書記官)を表敬訪問するとともに、メキシコJICA事務所へ調査実施報告を行った。

滞在中には、UTE、CETEの施設の視察を行うとともに、UTEのPedro Sabau Garcia局長及びMario A. Hernandez Moctezuma特別秘書、CETEのMr. Jose Luis Martinez副所長との面談も実施した。また、テレビサの施設の視察も行い、テレビサのJICA帰国研修員でもある担当者との面談も実施した。

② チリ

チリにおけるテレビ放送局は、国営の「チリ国営TV局」、大学に所属している4つの放送局（「チリ大学TV局」、「教皇庁立チリ・カトリカ大学TV局」、「バルパライソ・カトリカ大学TV局」及び「アストラリア大学TV局」）及び商業放送局の「メガビジョン」及び「ラ・レッド」がある。

これらの放送局は全て財政はコマーシャル中心の独立採算に頼っており、CATVも加わり熾烈な視聴率競争を行っている状況にある。なかでもリーディングTV局であるチリ国営TV局と教皇庁立チリ・カトリカ大学TV局間の視聴率競争は追いつ追われつの熾烈な状況にある。

チリのTV技術レベルはメキシコと同様、他の中南米諸国と比べるとトップクラスにあり、国営と、大学所属の局及び商業局の間には大きなレベル差はなく、互いに技術力を競いあっている。しかし、首都圏と地方とでは技術力の格差も大きく、またチリにおいては、人材育成の面でも特別な施設や制度があるわけではなく、テレビ分野の急速な技術革新を考えると問題も多い。

チリにおける番組制作面はメキシコと同様、制作施設や設備が十分でなく、新しい番組制作手法等の導入についても不十分な状態にあるといえる。

チリにおけるフォローアップセミナーには、主にチリ国営TV局、教皇庁立チリカトリカ大学TV局等の関係者から12名の参加があり、本セミナーは、チリにおける放送の今後の方向性・道しるべを示すことができ、参加者から深い理解と関心が寄せられ、良い結果を得ることができた。

JICA帰国研修員との面談においては、研修に関していろいろな意見が率直かつ活発に出された。特に、基礎的技術ではなく、これから放送局で新たに導入していく際に役立つ新技術やハイレベルの技術を、積極的にカリキュラムの中に採り入れ、また、実習、体験を通じながら習得できるような内容にウェイトをおいて欲しい等との意見が多かった。

今回のフォローアップ調査では、海外協力庁（Ms. Paulina Soto S.）、在チリ日本大使館（吉岡書記官）を表敬訪問するとともに、チリJICA事務所へ調査実施報告を行った。

また、滞在中、国営テレビ放送局及び教皇庁立カトリカ大学放送局の施設の視察を行うとともに、国営テレビ放送局のHector Navarrete Tapia理事長及びJorge Navarrete Martinez局長及び教皇庁カトリカ大学放送局のRuby Anne Gumpertz S.制作部長等との面談も実施した。

今回のフォローアップ調査を通じ大きく感銘を受けたことは、放送分野のJICA帰国研修員が日本での研修で学んだことを自らの職場に反映すべく、各地・各方面で活躍し、また、非常に熱心に、真摯な態度で前向きにとりくんでいることである。

また、今回の調査対象国のメキシコとチリでは、日本に対する大きな期待と信頼感が非常に強く感じられ、さらに、放送分野の人材育成の重要性について、訪問先との面談等で強調されていた。

一方、放送分野の技術は急速な進歩を遂げており、新しい技術の導入はこれからの放送の発展には必要不可欠なものであるが、これに見合った人材育成が一層重要となり、研修体制や内容等の対応が強く求められている状況にある。本報告書が放送分野における今後の研修の改善の一助となれば幸いである。

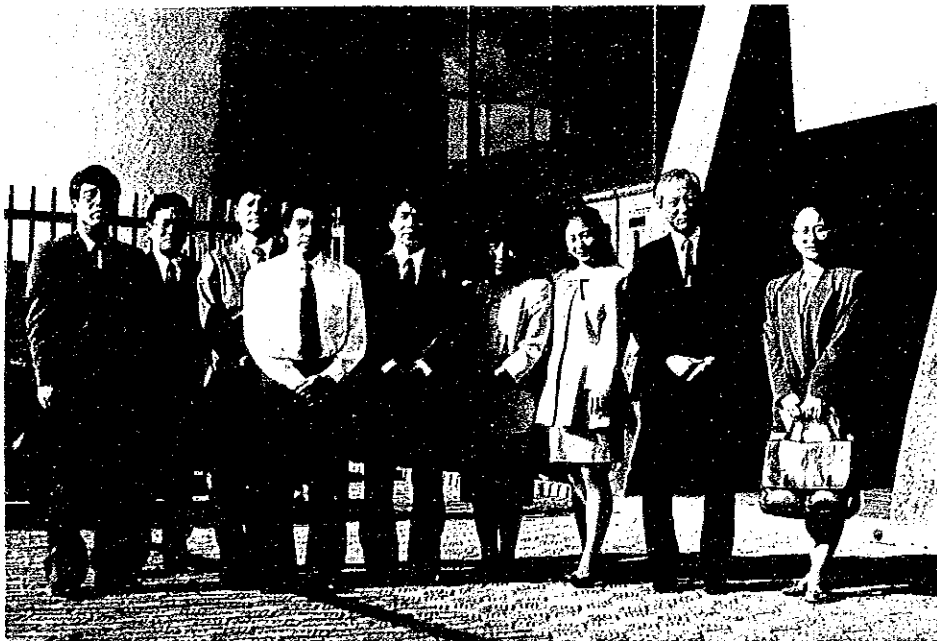
最後に、公開技術セミナーの開催及び帰国研修員との面談等今回のフォローアップ調査は、CETEの関係者皆様並びにメキシコ及びチリの現地JICA事務所の皆様の多大なる御支援と御協力により成功させることができました。ここに厚くお礼を申し上げます。



メキシコ・帰国研修員面談



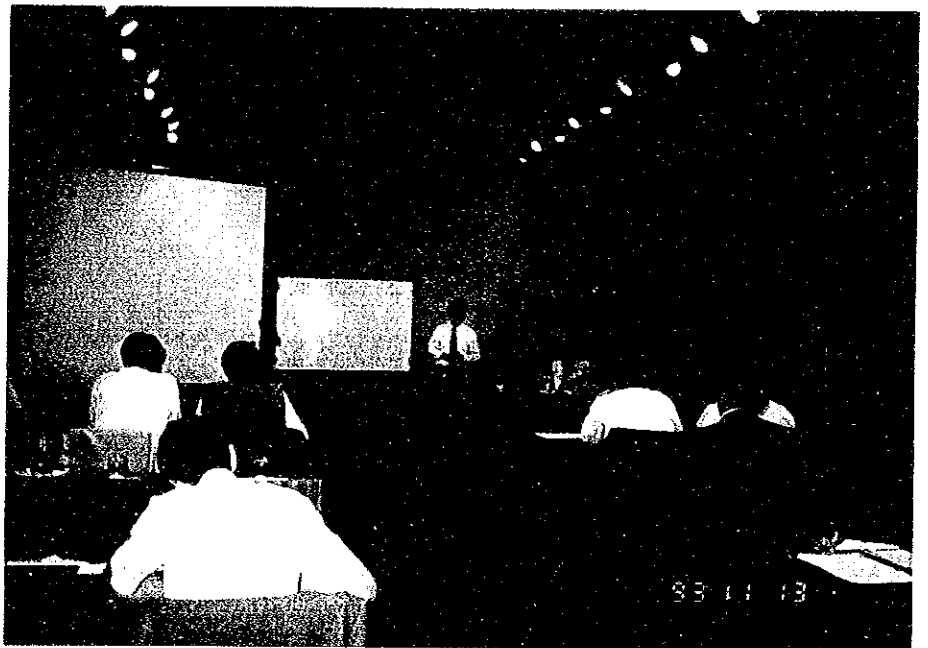
メキシコ・セミナー会場風景



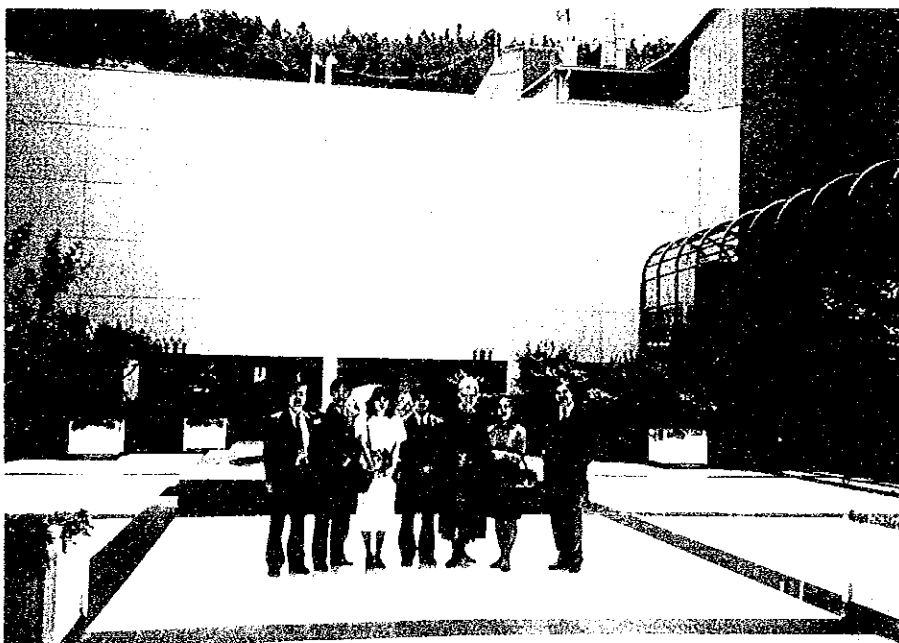
メキシコ・関係者とCETE前にて



チリ・国营TV／カトリカ大学放送局を望む風景



チリ・セミナー会場風景



チリ・
関係者とカトリカ大学放送局にて

第V章 質問表集計結果

1. 帰国研修員用質問表(全文)

(帰国研修員用)

FOLLOW-UP TEAM
FOR
JICA EX-PARTICIPANTS
OF
GROUP TRAINING COURSE
IN
THE FIELD OF TELEVISION ENGINEERING AND TELEVISION PROGRAMME PRODUCTION

Questionnaire for JICA Ex-Participants

You are kindly requested to complete this questionnaire and forward to JICA office. Please use additional sheet of paper and attach it herewith, if necessary.

1. Your Name (Fill in the below.)

(Please underline your surname or family name.)

Mr. / Ms. _____

2. The course name of your participation (Fill in the below)

() Television Engineering

() Television Programme Production

() Television Programme Production Engineering

() Social Education Programme

() Others : Name _____

3. Year of Your Participation : 19

4. Your Address & Phone Number (Fill in the below)

· Residence _____

Phone : _____ Fax No. : _____

· Mailing _____

· Office _____

Phone : _____ Fax No. : _____

5. Present Occupation (Fill in the below.) :

· Position _____

· Division or Department _____

· Name of Your Organization _____

· Type of Your Organization () Governmental
() Local Governmental / Public
() Semi-Governmental
() Non-Governmental / Private

6. Your Career and Duties (Answer the following three questions.)

6- ① Describe your career after returning home from Japan.

(Service Duration) (Your Position) (Organization Name)

(Month) (Year) (Month) (Year)

① _____ .19 ~ _____ .19 _____

② _____ .19 ~ _____ .19 _____

③ _____ .19 ~ _____ .19 _____

④ _____ .19 ~ _____ .19 _____

⑤ _____ .19 ~ _____ .19 _____

6- ② Describe briefly the duties of your services in your country at present.

6- ③ Attach a chart of the organization to which you belong and indicate your section in annexed paper.

7. Applicability of this course (Answer the following questions.)

7- ① Have you applied what you had experienced or obtained through the course programme (Lectures, Observations and Field Trip) to your job and daily activities after returning from Japan ?

 Yes / No

|

7- ② -1 If "Yes", answer the following questions.

(a) What kind of subjects, knowledge or experience through the course programme have you applied to your job?

(b) Explain in details the way how you have applied the above mentioned knowledge and experience to your job.

(c) Have you applied the knowledge and technique to your job which you had obtained in Japan immediately after coming home ?

() Yes / () No

7- ② -2 If "No", explain why you have not applied.

7- ② -3 Answer the following questions concerning difficulties in applying the knowledge and experience you acquired (your training outcomes) in the course to your job.

1. Are / Were your superiors at your office understanding and cooperative in application of your training outcomes ?

↓

() Yes / () No

2. Are / Were you supplied with sufficient equipments and materials to apply your training outcomes ?

↓

() Yes / () No

3. Are / Were you supplied with sufficient personnel to apply your training outcomes ?

↓

 Yes / No

4. Point out any other difficulties, if any, in applying the knowledge and experience you acquired (your training outcomes) in the course to your job.

7- ③ -1 Did the following course programmes satisfy your expectation or your own target?

(1) lecture :

- knowledge () completely () to some extent () not at all
 () others : _____

- technological aspect

 () completely () to some extent () not at all
 () others : _____

(2) observation :

- knowledge () completely () to some extent () not at all
 () others : _____

- technological aspect

 () completely () to some extent () not at all
 () others : _____

(3) practical training

- knowledge () completely () to some extent () not at all
 () others : _____

- technological aspect

 () completely () to some extent () not at all
 () others : _____

7- ③ -2 What knowledge and technique do you think NHK-CTI should emphasize more or newly introduce into its curriculum in the future and why ?

7- ④ If you have any suggestion or comment to improve the course programme, please describe them below.

8. Have you attended a similar training programme or seminar in the field of Television Engineering and Television Programme Production in a foreign country other than Japan ?

() Yes / () No

↓

8- ① If "Yes", specify the following :

- Year of Participation : 19____
- Duration of Course / Seminar ;
_____ year (s) _____ month (s) _____ week (s)
- Name / Title of Course / Seminar ; _____

- Venue of Course / Seminar : (Country Name) _____
- Organized by ; _____

- Sponsored by ; _____

2. 相手国関係機関用質問表(全文)

(相手国関係機関用)

FOLLOW-UP TEAM
FOR
JICA EX-PARTICIPANTS
OF
GROUP TRAINING COURSE
IN
THE FIELD OF TELEVISION ENGINEERING AND TELEVISION PROGRAMME PRODUCTION

Questionnaire
for
the Relevant Authorities

It is much appreciated if you would complete this questionnaire and forward to the JICA Office in order to accomplish our mission.

Please use additional sheet of paper and attach it herewith, if necessary.

* Name of Your Organization : _____

* Please explain briefly duties or services of your organization.

* Please attach an organization chart herewith.

JICA has been conducting the group training courses in the field of Television Engineering and Television Programme Production (; four courses) annually in accordance with the purpose and objective specified below.

I. TELEVISION ENGINEERING COURSE

(1) Purpose

The purpose of the course is to systematically introduce knowledge of television broadcasting technology to participants who are engaged in the field of television broadcasting in developing countries.

The training covers the technology of color television cameras, VTRs, studio equipment, transmission and reception.

(2) Objectives

- 1) Target of the course is the acquisition of fundamental knowledge and techniques covering the principles, methods, equipment and operation of television broadcasting.
- 2) Target level of each main subject is
 - a) to understand the fundamental theory of color television ;
 - b) to understand the fundamental principles and operations of the following equipment ;
 - * Color cameras (including handheld cameras)
 - * Studio equipment
 - * VTR (including VTR editing)
 - * Antenna and propagation
 - * TV transmitters
 - * TV receivers
 - c) to understand the fundamentals of outside broadcasting ;
 - d) to acquire a fundamental knowledge of satellite broadcast and Hi-Vision (HDTV) engineering ;
 - e) to acquire a fundamental knowledge of the application of digital techniques and computers to broadcasting.

II. TELEVISION PROGRAMME PRODUCTION ENGINEERING COURSE II

(1) Purpose

This course mainly covers programme production engineering, such as production in studio, outdoor and post production, etc.... Participants can expect not only to get the latest information on TV engineering but also improve their skills in programme production.

(2) Objective

By the end of the Training Course, the participants are expected to :

- 1) acquire advanced technology of TV broadcasting equipment such as TV cameras, VTRs, etc....,
- 2) understand fundamentals of new digital technology,
- 3) understands fundamentals of three dimensional computer graphics,

- 4) understand direct satellite broadcasting technology,
- 5) understand several new high technology in the field of broadcasting,

III. TELEVISION PROGRAMME PRODUCTION COURSE

(1) Purpose

The purpose of this course is to help participants find the most suitable means of television programme production in their countries by familiarizing them with the concepts and methods employed by NHK.

Participants will be given an opportunity to learn the general knowledge and technical skills of programme production which can be applied to musical, cultural, dramatized, and documentary programmes.

(2) Objective

During the training period, the participants are expected to :

- 1) become familiar with the basic characteristics of the television programmes of Japan.
- 2) learn, through practical training, the fundamental TV programme production methods used in the Japanese broadcasting system, which may be summarized as follows ;
 - a) The producer issues all the cues, in accordance with which the production work is carried out as the leader of the production staff.
 - b) The "complete programme" production method is used in which a thoughtgoing series of preliminary discussions and preparations are first carried out and then the production work is carried out in a single stroke within a scheduled period.

IV. TELEVISION SOCIAL EDUCATION PROGRAMME COURSE II

(1) Purpose

The purpose of the this course is to introduction technologies and methods of NHK educational TV programmes to the producers and directors who are engaged in socially informative TV programme production. The training will focus on educational TV programme production.

The participants are expected to renew their appreciation of the importance of education by TV, and to acquire necessary programme production techniques such as planning ability, mannar of presentation, etc.

In addition, the state-of-the-art technologies and the future prospects of the broadcasting field are also introduced.

(2) Objective

By the end of the training period, the participants are expected to :

- 1) gain a knowledge of the trends in social education TV programmes of NHK in Japan.
- 2) learn, through practical training, the methods of TV programme production under Japanese broadcasting system which may be summarized as follows :
 - a) A producer issues all the cues in accordance with which the production

work is carried out.

- b) A "complete programme" production method in which a thoroughgoing series of preliminary discussions and preparations is first made and then the production work will be carried out at a stroke within a scheduled period.
- 3) know the characteristics of some main production techniques used in producing social education TV programmes, such as video location shooting and editing.

QUESTIONS

1. Do the above-mentioned purpose and objective of the courses satisfy the requirements of this field in your country ?

Yes / No

↓
If "No", please describe the reason(s).

2. Is it necessary to change the above-mentioned purpose and objective in order to satisfy more adequately your country's requirement in the field of Television Engineering and Programme Production.

Yes / No

↓
If "Yes", please describe your suggestion(s) or alternative purpose or objective(s).

3. How do you select your applicant for the JICA training course ?

Please explain in detail your procedures for application.

(ex. What kind of examinations or interviews do you do ?)

4. How many months/weeks/days do you usually need to select your applicant(s) ?

_____ month(s) _____ week(s) _____ day(s)

5. From which organization did you get the information of this training course (From whom / which organization did you get General Information of this training course ?) and how did you inform your subordinate(s) in your organization of this training course ?

6. Does your organization evaluate your participant(s) after returning from Japan ?

Yes / No

↓
If "Yes", tell how your organization evaluates.

7. Answer the following questions concerned with the usage of what your ex-participants brought (training outcomes).

1) What are the training outcomes in your organization generated by applying what your ex-participants brought (training outcomes) ?

2) Explain in detail the way how your organization utilize the knowledge and information which your ex-participant(s) brought.

8. Have your organization assigned your staff member in this field to participate in a similar training course/seminar in a foreign country other than Japan ?

Yes / No

↓
If "Yes", specify the following;

{
• Country : _____
• Year : 19 _____
• Name of Course/Seminar : _____
• Duration : _____ year(s) _____ month(s) _____ week(s)
• Organized by : _____
• Sponsored by : _____

{
• Country : _____
• Year : 19 _____
• Name of Course/Seminar : _____
• Duration : _____ year(s) _____ month(s) _____ week(s)
• Organized by : _____
• Sponsored by : _____

{	· Country ; _____
	· Year : 19 _____
	· Name of Course/Seminar ; _____
	· Duration ; _____ year(s) _____ month(s) _____ week(s)
	· Organized by ; _____
· Sponsored by ; _____	

9. Compared with the training course or seminar held in a foreign country other than Japan, do you have any suggestion or comment for improving our training course?

10. If you have any request concerning the relevant training courses, please describe it below.

Thank you very much for your cooperation.

3. セミナー参加者用質問表(全文)

QUESTIONNAIRE

PART I : FOR ALL THE SEMINAR PARTICIPANTS

1. Name (Given name first) :
2. Date of Birth :
3. Home Address :
4. Name and Address of your organization :
5. Your present post in the organization and brief description of your duties :
6. Is the seminar beneficial to your career? How?

* As to the technical cooperation from Japan to your country...

7. What are the major technical difficulties in the field of television in your country?
8. What type of assistance do you think Japan can give to alleviate those difficulties? Check those which you consider necessary.

- | | | | |
|--|--|-----------------|--|
| <input type="checkbox"/> Training in Japan | | What kind? Why? | |
| <input type="checkbox"/> Dispatch of experts | | | |
| <input type="checkbox"/> Supply of equipment | | | |
| <input type="checkbox"/> Other suggestions | | | |

PART II : FOR THE EX-PARTICIPANTS IN JICA TRAINING PROGRAMME

9. Name and Type of the training you participated in. (circle a. or b.)

a. Group training _____

b. Individual training _____

10. Year of participation

11. Position and name of organization you belonged to at the time of participation.

12. List all the positions you occupied after you came back from Japan.

13. Has the training in Japan been useful for your job?

14. In what specific area are you making use of the results of the training in Japan?

15. Requests concerning follow-up activities by JICA.

16. Comments on organizing future training programme.

Muchisimas gracias por su cooperacion!
Thank you very much for your cooperation.

4. メキシコ国帰国研修員質問表 回答集計結果

(1) アンケート回答数；17名

(2) 参加コース名

テレビジョン番組制作	6(名)
テレビジョン番組制作技術II	2
テレビジョン社会教育番組II	2
その他	6(テレビ工学技術5)
無回答	1

(3) 研修参加年度

1993年	5(名)
1991年	4
その他	8

(4) 住所：省略

(5) 現職：省略

6. 職務内容

6-1. 帰国後の職務

任 期	省 略
地 位	・カウンターパート(1名) ・プロデューサー (7名) ・エンジニア (5名) ・講師 ・制作コーディネーター

所属団体名	・ C. E. T. E. ・ U. T. E.
-------	-----------------------------

6-2. 現職内容

- ・ 部署に関する研修コースを企画・実施
- ・ 機器類の品質管理のチェックとエンジニアへの操作とメンテに関する教育(5名)
- ・ 番組制作(5名)
- ・ プランニング、企画、管理、実行および制作エンジニアリングコースの指導(2名)
- ・ 教育番組の必要性和制作の進展とチェック

6-3. 所属団体の組織図：省略

7. 参加コースの適用度

7-1. 研修中得た知識を帰国後自分の職務に適用することができましたか？

はい： 13名 / いいえ： 4名

7-2. はいの場合

a. どのような科目・知識・経験が適用できましたか？

- ・ ハイビジョンカメラ
- ・ メンテ・サービスとデジタル技術(4名)
- ・ 制作前の企画作業(6名)
- ・ 脚本作成
- ・ 専門的な仕事の重要性の理解
- ・ VTR編集(OJT)
- ・ 機器に関する知識と実践

b. どのようにa.を適用しましたか？

- ・ 他のエンジニアの教育とデジタル技術を用いた新しい機器の導入
- ・ 日本からの機材を使うTelevisaのオペレーターのみを対象とするビデオとVTRのコースを計画。
- ・ 放送器材のメンテを行う時、ビデオ信号とオーディオ信号を正確にチェックしている。

・BetacamとU-maticの理論と実践

・テキスト作成

c. 帰国後すぐに適用できましたか？

はい： 11名／いいえ： 6名

7-2-2. いいえの場合

なぜ適用できなかったのですか？

・十分な資源や人材がない。日本人とメキシコ人の違い。(3名)

・利用するチャンスがなかった。

・制作作業のためのプランニングと技術に使う時間が異なる。

・他の人々が経験がないので、自分の知識や経験を生かせない。

7-2-3. 研修成果の自国への適用に際し

1. 上司の理解と協力がありますか？ はい： 11名／いいえ： 6名

2. 十分な設備と材料がありますか？ はい： 9名／いいえ： 8名

3. 十分な人材がありますか？ はい： 9名／いいえ： 8名

4. その他、適用に際し困難を感じる点

・良い装置がなく人材もない(4名)

・プランニングの時間(3名)

7-3-1. 研修内容はあなたの期待や目的を満足させられましたか？

(1) 講義	知 識	*完全に	6名
		*ある程度	8
		*ほとんどない	2
		*その他	1
	技術面	*完全に	10名
		*ある程度	6
		*ほとんどない	1
		*その他	
(2) 見学	知 識	*完全に	9名
		*ある程度	6
		*ほとんどない	2
		*その他	
	技術面	*完全に	11名
		*ある程度	4
		*ほとんどない	2
		*その他	
(3) 実習	知 識	*完全に	6名
		*ある程度	5
		*ほとんどない	6
		*その他	
	技術面	*完全に	4名
		*ある程度	7
		*ほとんどない	6
		*その他	

7-3-2. 将来の研修プログラムに関し、もっと力を入れた方が良いと思われる部分、又は新たに加えた方が良くと思うものは何ですか？。(なぜですか？)

- ・専門的なコース(2名)
- ・実習に力を入れる(3名)
- ・日本製テレビ装置に関する具体的な教育と新しい技術
- ・NHKのオンステージ、番組のコピー等実践的な教育
- ・様々な番組の典型的な生放送スタジオの見学
- ・デジタル技術(2名)
- ・光ファイバー等の新しい技術
- ・コンピューターによるグラフィック作成技術

7-4. コースの改善に関するコメント

- ・実習を増やす(5名)
- ・各国のニーズと設備に応じて研修グループを分類してほしい。
- ・1つの特別なチームとNHKでの実習を増やす。
- ・2、3人の上級プロデューサーとの共同番組制作
- ・オーディオとビデオの交換装置に関する情報
- ・様々なタイプの番組の制作

8. 今までに日本以外の海外でテレビ放送技術またはテレビ番組制作の分野で研修或はセミナーに参加したことがありますか？

はい： 1名 / いいえ： 16名

8-1. はいの場合：省略

8-2. 研修カリキュラム添付：省略

5. メキシコ国関係機関質問表 回答集計結果

I. 組織名：

*TELEVISA S. A. C. V. ...2件

業務内容：

*Televisaは、ニュース、娯楽番組、ドラマ、教育番組を制作する放送会社で、TV放送の他に、6つのラジオ放送局を持っている。

Televisaの制作した番組およびニュースは、南米諸国、ヨーロッパ諸国、および北アフリカ諸国で見ることができる。

1. 各コースの目的は、貴国の当該分野の需要を満たしていますか？

はい： 1件／いいえ： 1件

コメント：

前参加者のコメントによると、コースの内容はいたってベーシックなものである。

Educational Television Unityは、Telesecundariaの制作および放送に25年の経験がある。全国のテレビジョン信号を受信することができるしっかりした施設を持っており、いくつかの教育レベルをサポートするために、年間3000本のテレビ番組を制作している。

この意味で、メキシコは、他の発展途上国と比較して優っていると断言することができる。

それにもかかわらず、我々の技術および制作スタッフの鍛錬のために、経験の少ない者、またはテレビ分野で働き始めた者を派遣し続け、コースに参加させている。しかし、経験豊富な者の中には、テレビ制作の具体的な局面における専門的な知識を得ることに、とても興味を持っているものがある。

2. TV技術・番組制作の分野における貴国の需要をさらに十分満たすために上記の目的を変える必要がありますか？

はい：1件

・デジタル技術およびデジタル・ビデオ機器にもっと力を入れる。

NHKの作業モデルを参考として知るのはとても重要なことである。しかし、これらのコースに参加している国々の施設および特長を考慮することも必要である。我々は、TV台本の計画、作成、および企画、カメラ指示、背景デザインのような興味深い分野あるいは、ビデオ撮り後放送までの制作及び機器管理の特殊な局面における専門的なコースを、もっと長いトレーニング期間で計画することを提案する。テレビ技術分野でも、グループ・コースはいたってベーシックであり、コースの専門化が望まれる。衛星放送のような主題は、さらに興味深いものである。

3. JICA研修に対する応募者をどの様に選んでいますか？

- ・工学部の学位を持っていること。
- ・その分野における経験が豊富であること。
- ・英語に堪能であること。

各分野(技術、制作、管理およびトレーニング)のディレクターが、コースの情報を受けた。各ディレクターは、すべての要件を満たす候補者を仮定し、最終的に判断を下すGeneral Directorに必要な書類を提出する。

各ディレクターは、英語の習得を始めとするすべての要件を満たす候補者を選抜するために、職員リストをチェックする。この段階で、仕事に経験があつて、コースにとっても興味を持っていても、英語を習得していない候補者は、自動的に候補から落され、参加の機会を逃すことになる。

C. E. T. E.プロジェクトを担当する日本の専門家と候補者とのインタビューの後、候補者は書類A-2およびA-3を埋める。それらの書類はGeneral DirectorによってSecretaría de Relaciones Exterioresに送られる。これらの書類のコピーは、JICA Méxicoにも送られる。

4. 貴国の応募者を選考するのに必要な期間はどのくらいですか？

1ヵ月

参加者の選抜に必要な時間は、最も長くて1ヵ月。これは、U. T. E.スタッフに知らせる管理手続きを行うため。

5. 本研修の情報をどこから得ましたか？

- ・ Mexican International Relations Department (Secretaria de Relaciones Exteriores de Mexico)から。

メキシコにあるJICAのオフィスから情報を得た。JICAのオフィスは、U. T. E.のGeneral Directorに情報を送っている。

General Directorは、トレーニング・コースの分野に従って、書類のコピーをArea Directorに送る。

貴組織の職員に対し本研修に関する情報をどのように伝えましたか？

- ・ メモで知らせた。

6. 日本から帰国後貴組織は研修参加者の評価をしますか？

いいえ：2件

7. 1) 帰国研修員が持ち帰った技術を適応することにより貴組織に広められた研修成果は何ですか？

- ・ ビデオ・テープ分野に携わる技師に対するトレーニング。
- ・ 新しい機器を我々の要件に適応させること。

前参加者は自身のポジションに戻るため、トレーニング結果は、前参加者自身の仕事で応用されるでしょう。

2) 貴組織が帰国研修員の持ち帰った知識・情報をどのように役立てていますか？

- ・ デジタル機器を我々の会社に導入するにあたっての、日本人技師とのやりとり。

前参加者は、トレーニングで得た情報および知識を自身の上司および仲間と共用する。各参加者は、メキシコに戻るとすぐに、Educational Television Training Centerにおいて、興味を持つすべてのU. T. E.職員に対して、トレーニング・コースでの経験について報告するレクチャーを持たなくてはならない。

8. 日本以外に海外で同様の研修に職員を送ったことがありますか？

はい： 1件

・国名：イギリスのヨーク

・年：1992年

・コース／セミナー名：Television Directing, Production and Journalism

・期間：1年間

・企画：Arts International

・主催：The British Council Technical Cooperation - Training Department

いいえ： 1件

9. 日本以外の海外研修と比較して、本研修の改善のためになにか提案・コメント等ありますか？

他の国々と比べると、コースの期間をもっと長くして、主題をより深く追及し、より高いレベルのトレーニングを施す必要があると思われる。

10. 本研修に関して何か要望があれば記入して下さい。

テレビ分野でもっと経験を持つ候補者のため、いくつかの分野でコースの専門化を進めることを望む。

II. 組織名：

*ベラクルス州のXHGV 4チャンネル・テレビ

業務内容：

*4チャンネルはベラクルス州所有の公営の局で、商業目的ではなく、地域に役立つ内容の放送を行っている。我々の番組は基本的に、文化、教育、ニュース、娯楽に関する番組にバランスよく分かれている。これらの番組の80%は自局により制作されている。

*管理、オペレーション組織は総合部門、そしてニュース、管理、製作技術、番組編成の4つの部門から構成されている。

1. 各コースの目的は、貴国の当該分野の需要を満たしていますか？

はい：

2. TV技術・番組制作の分野における貴国の需要をさらに十分満たすために上記の目的を変える必要がありますか？

いいえ：

3. JICA研修に対する応募者をどの様に選んでいますか？

テレビ番組制作における経験と専門性に基づいて、また同様に興味、仕事ぶり、こちらのテレビ局内での日常の成果に基づいて。

4. 貴国の応募者を選考するのに必要な期間はどのくらいですか？

6か月

5. 1) 本研修の情報をどこから得ましたか？

メキシコのJICAより直接招待された。

- 2) 貴組織の職員に対し本研修に関する情報をどのように伝えましたか？

全ての希望者がコースについての概要を理解できるよう文書による公募が行われた。

6. 日本から帰国後貴組織は研修参加者の評価をしますか？

はい：

談話、面接、そして文書によるレポートの提出、特に未定であるその後の仕事についてのレポートによって。

7. 1) 帰国研修員が持ち帰った技術を適応することにより貴組織に広められた研修成果は何ですか？

このコースで学習した方法論を応用したテレビ番組の製作をとおして。

2) 貴組織が帰国研修員の持ち帰った知識・情報をどのように役立てていますか？

学習した方法論の我々のテレビ・チャンネル内での特殊な必要性への応用。

8. 日本以外に海外で同様の研修に職員を送ったことがありますか？

いいえ：

10. 本研修に関して何か要望があれば記入して下さい。

4チャンネルによって興味深いものとなるであろうこれらの研修コースに、我々のスタッフが再びアクセスできるようJICAに要請する。

6. メキシコ国セミナー参加者質問表 回答集計結果

(1) 全セミナー参加者

1. 名前：省略
2. 生年月日：省略
3. 住所：省略
4. 所属先名／住所：省略
5. 現職／業務内容：省略

6. 本セミナーはあなたの業務に役立ちましたか？何故？

- ・テレビ業界についてのより大きな展望があり、技術刷新の最新ラインに通じているということは非常に重要なことである。日本は非常に進んだ技術を持っていることを我々は知っている。日本を実際に知ることは最新の技術を知ることである。
- ・日本の進んだ技術と知識をどこでも使い、メキシコ独自の技術を持つことが理想である。
- ・CETEの各トレーニングコースで最新の知識を提供することができるから。
- ・テレビ関連のプロであるから、この分野の最新の知識を持っている必要がある。
- ・私が日本にいた1985年以来登場した技術進歩を知る助けとなった。そして新たにJICAとコンタクトすることができた。
- ・日本の国際協力エージェントの技術や方針—これは展望、傾向、使用法をより豊かにするものである—についてのインフォメーションとして、また、日本はこの分野では先端をいっていますので一般的な国際的傾向に関するインフォメーションとして有益。
- ・訓練を受けて、各人がより効果的によりよい仕事を発展させている。
- ・私たちにはテレビ番組の制作および放送に関するプロジェクトがあり、このセミナーによりこれらのプロジェクトを実施する上での構想に最新の息吹を吹き込むことができる。
- ・技術設備の近代化と制作方法を最新化する上で。
- ・我々は最新のテレビ技術を分析しているところだから。

- ・最新のテレビ技術テクノロジーを分析しているから。
- ・本セミナーから得たことは大変に有益。というのは世界レベルのテレビやラジオの制作が何たるか以上のことを扱っていることが少なかったから。
- ・技術進歩に関する情報、セミナーが我々に提供してくれる情報。
- ・この非常に興味深いテーマ、そして我々の国にとって非常に重要なテーマについてより良く知る助けとなった。
- ・CETEはエージェントのプロジェクトサイドにあり、JICAに関する総合的な情報として。また、私は国立大学の教員であり、このセミナーで得た知識は私の仕事の助けとなる。
- ・CETEはJICAを介した日本ーメキシコ間の協力プロジェクトであり、教育テレビに関するテーマと最新のテクノロジーは同センターの全スタッフにとって大きな重要性をもっている。
- ・私は通信およびエレクトロニクスに関する技師なので私にはかなり役に立ったと思う。
- ・ハイテク関連、つまり、ハイビジョンやデジタルビデオの現状を知るうえで。
- ・教育用に使用されている新しいテレビシステムについての最新の情報を得る上で。
- ・情報
- ・私の生徒たちに伝えるためのよい知識が得られた。
- ・オーディオビジュアル番組の制作に関する技術や技術情報を得る上で。
- ・はい。それは私が学んでいることであり、また、私の仕事。
- ・はい。有益。なぜなら私どものクライアントは様々な必要性を持っており、番組の多くは外国に送られるか「al aire」放映されるので、どのクライアントがどの番組を、どのサイズ(HDTVなど)でいつ我々に依頼をだしてくるかわからない。そのため我々はこの点に備えていなければならないからである。
- ・HDTVの新しい情報を得ること。教育分野での新教育技術を得ることは重要。
- ・魅力に満ちたテレビ業界で私の専門を実現するのに役立つ。全て知りたい。
- ・はい。このセミナーでは大変重要な知識を得た。
- ・はい。私はプロとしてテレビのポスプロに従事している。私が関心を持っている分野は制作である。私にとって同じ分野の中における異なった視点を知る上で、また最新の傾向を知っていく上で役に立った。

- ・はい。新しい技術について知識を得た。
- ・はい。新しい技術について学ぶことができ、教育テレビの新しい応用を模索することができた。
- ・はい。我々にとって、技術協力はとても重要なことであり、有難い。
- ・はい。この分野に関する知識を更新および取得するために必要。
- ・はい。自分の知識を現実化するために役立った。
- ・はい。なぜなら、私には、新しい技術発展についての情報が必要だから。
- ・はい。新しい技術を習得し、他の放送施設の現状について知識を得る機会を持つことができた。
- ・はい。このセミナーで、新しい知識を得た。
- ・はい。
- ・テレビ制作や、HDTV、デジタル・ビジョンに関する最新の情報を知ることができ、良かった。
- ・はい。なぜならば、新しい知識を身につける必要があるから。このセミナーによって、私はハイビジョンシステムとデジタル・テレビに関してより多くのことを学ぶことができた。

7. 自国のテレビジョン分野における主な技術的問題は何ですか？

- ・テレビのためには、ここメキシコでも、全関係者、学生、技師、教師などが研究に参加しなければならないと思う。政府は研究プロジェクトを支援すべき。
- ・デジタルオーディオやデジタルビデオに関するノウハウ。
- ・トランスミッションだと思う。
- ・(技術的)研究プログラムが足りない。普及方針が次々に変わる。
- ・他の国に比べ技術的な設備に遅れがあることで、費用が高いことから民間の企業(商業的な)のみが備えていること。
- ・政府系テレビ、具体的にはUTEは非常に大きな問題を抱えている。それはプランニング不足、中・長期的なプログラムの欠如である。たとえば、元奨学生の大半はここでは働かない。そのため教育経費は損失となっている。そして、元奨学生が働いている所に利益を与えている。
- ・私たちが国内に抱える最も大きな問題点は、テレビ技術設備の近代化とそれ

- を操作する人材の教育にある。
- ・鮮明度の高いテレビジョンがないということ、実際のイメージに近いカラーバリエーションがないということ。
 - ・民間テレビには教育的テレビ制作がない。教育テレビチームのみが教育的な番組を作っている。しかし、予算が少ないので公式な教育向け。(テレビ幼稚園、テレビ小学校、テレビ中学校)。
 - ・政府系の事業所でありながら、この分野のエレクトロニクスで先端にたてないこと。
 - ・上級教育レベル(UNAM)用のテレビ・ラジオ(オーディオ)機器が充分ではない。
 - ・TV信号の受信
 - ・ビデオ録画のサイズがいろいろあり制作上の問題を生じている。
 - ・TVの技術的な構造化
 - ・最大の困難は、地形や気候を原因として生じる電波障害。
 - ・テレビという大変広い分野で学生を専門的に教育する学校がない。
 - ・最大の問題は技術者(研修)である。
 - ・技術が問題なのではなく、問題点は、その技術の使用方法にあると考える。マス・メディアは道具に過ぎないことを学ばなければならないが、その応用では、もっと人間性を重視しなければならず、組織的機能主義に偏ってはならないと考える。
 - ・私の組織では、デジタル機器に関するコースを作成または提供したいと思っており、これらの機器を実用化していない。
 - ・カメラ、編集、およびスタジオの機器の不足。限られた予算。
 - ・制作分野においては、台本構成、イメージ構成などにおいて問題がある。
 - ・新しい機器を我々の要件に適應させること。
 - ・技術や操作における良質なトレーニングが欠けている。
新しくて良い機器が不足している。
 - ・(問題は)技術面ではなく、組織面にある。
 - ・新しい機器を得ることと、それを実用化すること(に問題があると思う)。
 - ・私は地方(州)のテレビ局に勤めており、私の仕事の性質上、専門的な作業を利用することが非常に難しい。

8. 日本がそれらの問題を多少とも解決する為に行う事の出来る協力とはどのようなタイプだと思いますか？

・日本での研修、設備の供給

なぜなら、デジタルオーディオやデジタルビデオのデジタルに関するノウハウをあなた方は私たちに研修コースで提供することができるからである。また、日本の設備はメキシコにとって大変な重要性を持つから。

・専門家の派遣

なぜならこちらに来るような専門家は、こちらの全スタッフが必要としている研修を行うことができるであろうから。

・日本での研修、専門家の派遣、設備の供給、その他

奨学生が適切な期間で業務を続けられるようJICAからメキシコの各関連機関に対し助言する必要があると思う。そうすれば、彼らが得た知識を国内の業務に生かすことができるから。

・日本での研修、専門家の派遣、設備の供給

これらの側面はすべて私たちが発展する上で重要である。しかし私は中・長期的なプログラムこそ重要だと考える。そして、貴方たちが支援している機関へ研修を受けに行く人達が残るようにするのである。そうすれば、少なくとも職務を果たすと同時にその機関を強化することができるから。

・日本での研修、設備の供給

前質問への答えとして述べたとおり、州政府テレビには制作や技術関連の人材開発のための資金がない。

・日本での研修、設備の供給

デジタルオーディオとデジタルビデオ。オーディオ、ビデオに関する最新の技術の状況を把握するため。というのはアナログよりもすぐれた信号を有しているから。本分野に関する設備と専門家によって教育をするため。

・日本での研修、設備の供給

デジタルビデオ、デジタルオーディオ。これらに関する知識の土台をさらにより良く築きあげる。私の業務をより向上させるため、より進んだものにするための研修。

・日本での研修、設備の供給

最新のテクノロジーを用いた、例えばオーディオ機器「DAT」やデジタル技

術を用いた最新のテレビ制作、また、ベータカムのような最新のビデオ録画機器を用いた教育を学生に行うべき。通信学校におけるこの問題をいかに解決するかを認識する必要がある。

・TVの最新技術情報を送ること

—国内市場にある機器の変更

なぜならば、時としてハードウェア(設計の)による欠陥を呈する場合があるからである。

・設備の供給

様々なサイズのVTR

・日本での研修

学生交換をし、世界のテレビ局を訪問する。

会社は社員だけを派遣するので学生にはチャンスはない。これではどうやって経験を積みよいか。

・日本での研修、専門家の派遣

技術/メキシコにはテレビ業界の適切な人材を養成する機関がない。従って質の高い人材の養成は企業が直接行っている。

・デジタル機器。なぜなら、メキシコのほとんどすべての会社では、質の向上のために、この種の機器へ変えつつあるから。

・日本での研修、専門家の派遣、設備の供給

日本で、もっと高度な次の段階の研修コースを続けたいと思う。私の参加したコースはベーシックすぎた。

・専門家の派遣

教育テレビ番組における制作専門者。なぜなら、その専門家は、多くの新しい知識を我々に与えてくれるから。

注：実際は、CETEにテレビ制作における専門家がいるが、より多くの日本人専門家が他の制作機関に派遣されれば良いと思う。

・日本での研修、専門家の派遣

新しい設備の設計に関するトレーニング。それにより、細かな点を適応させることができる。新しい設備を使うにあたっては、専門家のサポートが必要。

・日本での研修、専門家の派遣

どちらの研修制度も非常に重要。なぜならば、日本での研修では知識を直接

得ることができるし、専門家を派遣していただければ、日本でのコースを拡大することができる。新しい知識を身につけることが大切。

13. 日本における研修は自分の仕事に有益でしたか？

- ・はい、そこで得た知識を研修コースで提供している。
- ・はい、今度はもっと深く学びたい。
- ・たいへん有益。特にアニメーションは私自身の職業訓練として非常に重要。
- ・はい、でも、JICAのプログラムでの研修を続けてゆきたい。
- ・現在のところノー。
- ・はい。理論的な知識や実践的な技術の点で。
- ・はい。なぜならそこでTV番組制作の手法を向上させることができたから。
- ・はい。しかし、ベーシックすぎたので、自身の仕事を向上させることはできなかった。
- ・はい。なぜなら、テレビ制作の新しい方法や、新しいコンセプトを知ることができたから。
- ・はい。しかし、この知識を私の勤めているテレビ局の他の人たちにも広げる必要があると思う。私はコースで身につけた知識を私のテレビ局の人々に伝えているが、しかしコースで直接経験する必要がある。

14. 日本における研修成果の特にどの分野を適用していますか？

- ・C. E. T. E.の研修コース
- ・CETEのカウンターパートとして「編集とポストプロ」および「オーディオ操作」についてのテキストを作成するため、共著者としては知識の点でも経験の点でも非常に役立つ。
- ・ポストプロ
- ・今回の出張と日本でのトレーニングではアニメーション。私の関心はあらゆるタイプのアニメーションにあった。私の今までの経験の大半がアニメに関するものだから。
- ・認識の分野は別として、本コース後に持つ展望は驚くべきものであり、貴殿たちのすぐれたテクノロジーを知ったのは素晴らしいことだった。

・ビデオテープや放送機器の予防的なメンテナンス部門において。

・一教育

・一テレビ番組制作(フリーランス)

・一テレビ制作顧問

・一トランスミッション技術において

・一テレビ番組制作において

・トレーニング。なぜなら、私はVTRのコースを提供しているから。

・25分番組を詳細に練ること。

・すべての知識(を利用することができると思う)。

現在私は、プロデューサーとアシスタントのためのテレビ制作コースを作っているから。

・他のエンジニアをトレーニングすること。デジタル技術

・前もって計画すること。

・一企画と制作の指揮

・一脚本の作成

15. JICAにおけるフォローアップ活動に関するリクエスト

・JICAをとおしてNHKがアメリカでおこなうプロジェクトに35mmビデオテープでの制作業務を提供できること。

・前奨学生がどのように仕事をしているか、また彼らが参加したコースは有益であったかを知るために必要。

・2回目の集中(短時間)コース、すべての前参加者に対する"トレーニング・プログラムII"、またはNHKにおける個人的なトレーニング。

・このセミナーは、とても良いアイデアであり、次回はこのセミナーの期間がもっと長いものであることを期待する。

・日本語コース

・このセミナーは、私が東京でトレーニングに参加して以来初めて、JICAがメキシコにおいて計画したセミナー。もっと多く来ていただけるとありがたい。

・上級のプロデューサーがメキシコにおいて定期的にコースを行うと良いと思う。

16. 将来の研修プログラムの運営に関するコメント

- ・デジタルビデオについてもっと良く知りたい。
- ・ハイビジョンシステムおよびデジタルアニメーションによる教育・文化番組制作についての専門的な個人コースが私にとって将来的に必要。
- ・私の個人的な経験から、アニメに関する基礎から最新のテクノロジーの駆使にいたるまでを扱う専門的なアニメのコース。貴方たちにとって既に当り前のことでも私たちにはまだまだ未知のこと。
- ・制作の始終を知りたいので、制作グループと一緒に仕事をするチャンスがあればと思う。
- ・研修プログラムで満足できるものは何もなかった。
- ・こうした媒体に関心のある人々にとって最新の知識を得るためのコースは大変に必要なもの。
- ・これまでの経験をベースに、私はプロフェッショナルな意味で最新の知識を得るための活動あるいは研修に参加者あるいはインストラクターとして参加するつもり。
- ・技術よりも、日本人の態度について学ぶべきだと思う。私は、あなたがたが見せた謙遜を賞賛する。我々は西洋のイデオロギーに飽きており、私はその態度を信用していない。この点が、あなたがたの最も重要な使命だと思う。
- ・デジタル機器のコースを望む。
- ・トレーニング・プログラムを実現し完成させるために、日本での別の継続的なトレーニング・コースを望む。参加したコースは単独のベーシック・コースであり、とても良かったが、もっと技術的な知識を必要とするプロデューサーにとっては、物足りないものだった。
- ・テレビ・プロデューサーにとっては、NHK東京における見学や制作チームとの質疑応答のような内容がもっと多ければ良いと思う。
- ・日本製機器についてのより細かいトレーニング。
- ・メキシコのCETEは、メキシコや南米のためのトレーニングを計画しようとしていますか？
- ・コースを拡大する必要があると思う。6年以上にわたって多くの受講者がテレビ局で働いてきた。私どもは専門的なコースを必要としている。NHKにおける番組制作に直接参加する必要がある。

7. チリ国帰国研修員質問表 回答集計結果

(1) アンケート回答数；12名

(2) 参加コース名

テレビジョン放送技術	3名
テレビジョン番組制作	5
テレビジョン社会教育番組II	2
その他	1(上記4コース以外)
無回答	1

(3) 研修参加年度

1989年	3(名)
'76, '77, '82, '83, '85, '87, 90, '92, '93年	各1
その他	

(4) 住所：省略

(5) 現職：省略

6. 職務内容

6-1. 帰国後の職務

任期	地位	所属団体名
省略	・ディレクター (6名)	・TV Nacional de Chile (6名)
	・プロデューサー(2名)	・UACH (2名)
	・エンジニア (2名)	・その他 (4名)
	・その他 (2名)	

6-2. 現職内容

- ・番組制作(文化、政治、娯楽、教育、宗教etc.)及び管理
- ・番組、CM、プログラム・プロモーションなどのスケジュール調整、放送
- ・番組における技術、操作、番組の国内外(南米)への送信、衛星通信からの受信

- ・FM、TVの放送局への保守サービス
- ・ニュース報道のカメラ

6-3. 所属団体の組織図：省略

7. 参加コースの適用度

7-1. 研修中得た知識を帰国後自分の職務に適用することができましたか？

はい： 10名 / いいえ： 2名

7-2. はいの場合

a. どのような科目・知識・経験が適用できましたか？

- ・番組監督、調整、ドキュメンタリー、教育番組、老人番組、企画制作
- ・新技術・作業システム
- ・照明、音響、ロケ中のカメラに関する技術
- ・TV学習の観察
- ・スタジオ技術装置、送信

b. どのようにa.を適用しましたか？

- ・カメラマンの仕事とニュース読取の改善
- ・学んだものと同様なTVシステムの導入及操作
- ・第三世代用ドキュメンタリー制作
- ・TELEPUCのコンピューター部門での企画及監督
- ・照明分野での活用
- ・技術情報の輸入と適用の必要条件の提示

c. 帰国後すぐに適用できましたか？

はい： 6名 / いいえ： 6名

7-2-2. いいえの場合

なぜ適用できなかったのですか？

- ・コース内容が基礎的すぎる
- ・自社に専門的機器がない

- ・技術の進歩が急速なのでコース内容はすぐ古くなる
- ・大学向視聴覚教材作成にたずさわっているのでコースの子供向教育番組とはかなり異なる

7-2-3. 研修成果の自国への適用に際し

1. 上司の理解と協力はありますか？ はい： 8名／いいえ： 4名
2. 十分な設備と材料がありますか？ はい： 7名／いいえ： 6名
3. 十分な人材がありますか？ はい： 6名／いいえ： 6名
4. その他、適用に際し困難を感じる点
 - ・技術的・人的資源の不足／番組規模の大小によって技術、チームなど大差がある／アシストなので作業方法を変える立場にない
 - ・技術オペレーターはシフト制で外部で働いていることもあり、話し合いをもちにくい

7-3-1. 研修内容はあなたの期待や目的を満足させられましたか？

(1) 講義	知識	*完全に	2名
		*ある程度	7
		*ほとんどない	3
		*その他	0
	技術面	*完全に	4名
		*ある程度	5
		*ほとんどない	3
		*その他	0
(2) 見学	知識	*完全に	4名
		*ある程度	7
		*ほとんどない	1
		*その他	0
	技術面	*完全に	6名
		*ある程度	4
		*ほとんどない	1
		*その他	1

(3) 実習	知識	*完全に	3名
		*ある程度	4
		*ほとんどない	5
		*その他	0
	技術面	*完全に	5名
		*ある程度	2
		*ほとんどない	5
		*その他	0

7-3-2. 将来の研修プログラムに関し、もっと力を入れた方が良いと思われる部分、又はなぜですか？

- ・電子ジャーナリズム関係の技術 - よりよい結果を早く得るため
- ・NHK-CTIにおける実用的トレーニング - TVの仕事は主にトレーニングだから
- ・台本、創造的側面、製作及びCG、写真インタビューなど他媒体によるプロの製作の監察と分析
- ・CG(コンピュータグラフィック)、精巧な技術編集
- ・テーマが高度で時間が足りない
- ・デジタル技術、システム(放送)、設計システム、ビデオとオーディオの圧縮、デジタルVTR
- ・上級TVエンジニアリングなら常に最新のTV機器を含めるべき
- ・デジタル、コンピューター化の教育
- ・コースの高度化 - 参加者に2~3年の経験を要求しているので。もっと皆が得られた知識を利用できる
- ・バラエティー、ジャーナリスト、トークショー - チリではNHKのような教育番組の重要性は展開されておらずこれらの番組が主流なので

8. 今までに日本以外の海外でテレビ放送技術またはテレビ番組制作の分野で研修或はセミナーに参加したことがありますか？

はい： 1名 / いいえ： 11名

8-1. はいの場合：省略

8-2. 研修カリキュラム添付：省略

9. 他国における研修に参加してみて感じられた日本での研修の改善すべき点

- ・コースの再受講、10年後に短期コースで新知識を得る必要あり

8. チリ国関係機関質問表 回答集計結果

1. 組織名：

*Corporación de Televisión de la Universidad

Catolica de Chile

業務内容：

*Pontificia Universidad Catolica de Chileに所属するテレビ局を開局すること。

1. 各コースの目的は、貴国の当該分野の需要を満たしていますか？

はい：

2. TV技術・番組制作の分野における貴国の需要をさらに十分満たすために上記の目的を変える必要がありますか？

はい：

・参加者のレベルを合わせた方が良いと思う。

3. JICA研修に対する応募者をどの様に選んでいますか？

4. 貴国の応募者を選考するに必要な期間はどのくらいですか？

2ヵ月

5. 本件集の情報をどこから得ましたか？

・Agencia de Cooperación Internacional del Japón - JICA

6. 日本から帰国後貴組織は研修参加者の評価をしますか？

はい：

7. 1) 帰国研修員の持ち帰った技術を適応することにより貴組織に広められた研修成果は何ですか？

・訓練中に得た新しい知識を職場に普及させること。

8. 日本以外に海外で同様の研修に職員を送ったことがありますか？

はい：

- ・国名：スペイン
- ・コース／セミナー名：Production
- ・期間：4ヵ月
- ・企画：OTI
- ・主催：Corporación de Televisión de la Universidad Católica de Chile

9. 日本以外の海外研修と比較して、本研修の改善のためになにか提案・コメント等ありますか？

ほとんどの訓練コースはそれぞれ特有の内容であり、各コースの内容に合わせて参加者を決めている。

II. 組織名：

* Universidad Católica de Chile Corporación de Televisión

1. 各コースの目的は、貴国の当該分野の需要を満たしていますか？

はい：

2. TV技術・番組制作の分野における貴国の需要をさらに十分満たすために上記の目的を変える必要がありますか？

いいえ：

3. JICA研修に対する応募者をどの様に選んでいますか？

選択基準(基本方針)

- a) 職務を発展させている上で示される熱意
- b) 仕事を遂行している上で示される習得能力
- c) 技術部門の要望
- d) 会社に長くいたいという参加者の希望

4. 貴国の応募者を選考するに必要な期間はどのくらいですか？

2ヵ月

5. 本件集の情報をどこから得ましたか？

チリの日本大使館を通してJICAが提示している情報によって。

6. 日本から帰国後貴組織は研修参加者の評価をしますか？

いいえ：

公式には評価は行わない。

7. 1) 帰国研修員が持ち帰った技術を適応することにより貴組織に広められた研修成果は何ですか？

厳密に確立された方法はない。しかしながら訓練についてもっとも関心に値すると思われる事柄を参加者が説明する座談会を設けることにしている。

8. 日本以外に海外で同様の研修に職員を送ったことがありますか？

はい；

・国名：スペイン

・年：1992年

・コース／セミナー名：Instalaciones y equipos de producción televisiva

・期間：1ヵ月

・企画：OTI

・主催：Televisión española

9. チリ国セミナー参加者質問表 回答集計結果

(1) 全セミナー参加者

1. 名前：省略
2. 生年月日：省略
3. 住所：省略
4. 所属先名／住所：省略
5. 現職／業務内容：省略

6. 本セミナーはあなたの業務に役立ちましたか？何故？

- ・高品位テレビに関する知識を深めるのに
- ・JICAへのよりいっそうの認識
- ・チリ運輸通信省の職員にとって文化的観点から見てかなり有益
- ・省の担当官との情報提供、意見交換、報告
- ・個人的興味としてはデジタル・テレビの研究に関して
- ・現在日本が有する進んだ技術、その現状、並びに将来への影響についての情報が得られる。
- ・テレビの放送システムについての最新の情報を知ること。
- ・新しい知識の習得により。このセミナーは、技術面からみて私のキャリアの中でまた私の知識の発展の上で重要なもので、とりわけ視野を広げ、口頭で、並びにオーディオビジュアルの形で集約されることが重要。
- ・新技術に関する最新の知識の獲得、私たちの仕事の将来に有益。
日本の方たちとの友好が深まり、さらにテレビ放送の面では技術に関する知識の実用化を可能にするため。
- ・このセミナーは、非常に豊かで、興味深く、異なる文化を知り、テレビ技術における最新の進歩を知り、そして特に経験豊かで、優秀な、素晴らしい人々と友好関係を持つことを可能にするためたいへん有益。
- ・最近開発されたテレビの新しい技術に関する新しい経験と知識を得た。この経験を後で同僚に伝えるつもり。
- ・新技術に関する最新の知識の獲得、私たちの仕事の将来に有益。
- ・日本のハイビジョン技術を知ることができた。

- ・テレビ通信の新しい技術についての知識を高め、実現するのに有用。
- ・新しい技術についての情報と経験を得ることができたので、私には有益。

7. 自国のテレビジョン分野における主な技術的問題は何ですか？

- ・1. チリの地形が原因である地域では番組受信に問題があり、そのため多数の中継装置が必要となっている。
- ・2. 近接したVHF-UHFバンドにおけるテレビ・チャンネルの未指定。4と5、6と7チャンネルを除く。
- ・技術設備の近代化、情報の集中化
- ・新しい技術及び新しい設備の実習
- ・送信者と受信者間の地理的障害による画像の乱れ
- ・国内のいくつかの地域では映像の受信が良くない。設備およびその活用における知識不足。より長い時間の使用を可能にするメンテナンスの問題。メンテナンスとは設備に関するオペレーターの誤った使用のことを示す。
- ・番組の編集、ポストグラフィック・プロダクション
- ・専門性の欠如、一般的な技術資源の不足、そして特に物質面の進歩に伴う先端技術の欠如。
- ・問題の大部分は進んだ技術並びに財源の不足。
- ・番組製作の技術設備
- ・チリは長い国であり、最も困難な問題は、当テレビ局の信号を国全体に送信すること。したがって、これらの問題を改善する新しい技術を必要としている。
- ・番組の編集、ポストグラフィック・プロダクション
- ・当テレビ局(1チャンネル)の場合は、技術的基盤が貧困。
- ・地理的な問題と、遠隔地でのテレビ信号の劣悪さだと思う。
- ・最新の装置の保守と操作に関する新しい技術情報を学び、習得することと、測定装置を適切に使用すること。

8. 日本がそれらの問題を多少とも解決する為に行う事の出来る協力とはどのようなタイプだと思いますか？

・テレビ受信機の授与

・ a. 日本での研修

b. 設備の供給

a. 効果的で有益なテレビ・プログラムの製作を可能にするための方法を具体化しながら、新しい進んだ技術を考慮する教育テレビ番組の制作管理についての研修。そのためにはNHKとの直接のコンタクトが適当と思われる。

b. ポストプロダクション及びコンピューター・グラフィック用機器の近代化。

・ 専門家の派遣

新しい技術についてスタッフに指導できる技師レベルの人

・ 専門家とのコミュニケーションにより、言語の違いにもかかわらずより大きな共感が生まれる。個人的には、JICAの専門家の人達、前田タカシ、同様に先生そして友達、ヒグマヒロアキ、そしてあらゆる知識を教授してくれた堀氏とともに1つの経験を得ましたし、また仕事の面では技術の知識並びに管理において多大なる経験、そして技術的要素に対してはある種の経験を得た。

・ 日本での研修、設備の供給

ー デジタル編集機器

ー コンピューター・グラフィック用機器

現在の後れた設備のため我々の仕事は時間がかかっている。

NHKテレビセンターでの研修

・ 日本での研修、専門家の派遣、設備の供給

私の興味は教育テレビのほうに向いており、日本はこの分野での世界的な指導者。私の国に应用できる必要な知識を習得するための専門的な研修を受け入れることをたいへん誇りに感じている。設備並びにコンサルタントを得ることはまたたいへん重要。

・ 日本での研修、専門家の派遣、設備の供給

日本での研修。その技術が最も進んだ国だから。

供給された設備に関して我々を指導する専門家の派遣。効果的に作業を行う

ため。そしてしっかりといつも連絡を取る、すなわち手紙並びに文書、またはオーディオ・ビジュアルの方法で。

- ・日本での研修、設備の供給

- －デジタル編集機器

- －コンピューター・グラフィック用機器

現在の後れた設備のため我々の仕事は時間がかかっている。

NHKテレビセンターでの研修

- ・日本での研修、設備の供給

首都から離れた地域の人たちを地域外の大学や別の組織によって訓練することと、テレビを供給すること。

- ・日本での研修、専門家の派遣、設備の供給

教育用テレビ番組の制作に関するもの。その理由は、放送またはビデオテープを使って、正式かつ基本的なメディア教育を直接学校に対して支援する番組を制作することに関心があるから。

13. 日本における研修は自分の仕事に有益でしたか？

- ・担当業務での制作過程の企画、立案において

- ・テレビ工学分野で多くの経験を身につけた。

- ・制作部部長のときに、役立った。

- ・訓練で使われた装置をそのとき初めて知り、訓練の後でその装置を使った。

14. 日本における研修成果の特にどの分野を適用していますか？

- ・教育番組の制作

- ・番組の編集およびポストプロダクションの分野での、日本で習得した確かな技術の使用

- ・ドキュメンタリーの製作において

- ・私たちの放送には新しい装置が導入されている。NHKでの研修中にこの新しい技術に関する経験を得たことは成功だった。

- ・番組の編集およびポストプロダクションの分野での、日本で習得した確かな技術の使用

- ・ドキュメンタリー番組と教育番組を制作するとき。また、日本の文化と組織を知ったことは、私のキャリアを??? (mein)するのに非常に役立った。
- ・同じテレビ番組を制作して、専門技術への技術的変換をする場合。
- ・照明、音響、カメラなどのさまざまな分野。
- ・保守技術と、新しいプロジェクトの開発。

15. JICAにおけるフォローアップ活動に関するリクエスト

- ・私たちには、対話形式のテレビやマルチメディアに関する情報がない。この情報は、教育用テレビに非常に有効。
- ・可能であれば、日本での他の訓練プログラムに参加したいと思う。

16. 将来の研修プログラムの運営に関するコメント

- ・学習による多くの進歩が得られるよう、同じような経験及び知識の水準を有する人ごとにグループ分けした方がよいと思う。私の日本での研修の際は、主にレベルが均一でないグループで作業が行われたから。
- ・番組のポストプロダクションの研修を受けさせていただきたいと思う。
- ・日本にいるときに、時間のせいで主題の大部分を修了しなかった。将来、この研修を修了することができれば非常に有用だろう。最近、新しい技術、新しい装置が導入されたため、そのことに関して知ることはきわめて重要。
- ・番組のポストプロダクションの研修を受けさせていただきたいと思う。
- ・もっと一元的なグループ訓練や個人訓練を選んでほしいと思う。
- ・訓練プログラムをより実践的にしてほしいと思う。

第VI章 添付資料

1. 帰国研修員名簿

LIST OF PARTICIPANTS

COUNTRY	NAME	DURATION	TRAINING SUBJECT	ORGANIZATION & POSITION	ADDRESS OF ORGANIZATION	REMARKS
MEXICO	MS. MARIA LOURDES P. HIDALGO CEDILLOS (8300639)	1983 7/29 - 1983 10/3	テレビの制作 (10)	EDUCATIONAL AND CULTURAL TELEVISION PROGRAMS PRODUCTION DEPARTMENT PRODUCER OF PROGRAMS	AV. CIRCUNVALACION Y TABIQUEROS COL. MORELOS, MEXICO DF.	
MEXICO	MS. ANA ELENA SERRANO (8300640)	1983 7/29 - 1983 10/3	テレビの制作 (10)	SECRETARY OF INTERIOR GENERAL DIRECTION OF RADIO & TV SUPERVISOR OF FILMS FOR T. V.	COLIMA 161 COL. ROMA MEXICO D. F. 06700	
MEXICO	MS. VENEGAS RUIZ PATRICIA (8504807)	1986 1/17 - 1986 3/10	テレビの制作 (10)	XEIPN-T. V. CANAL ONCE DIVISION DET. V. EDUCATIVA TELEVISION EDUCATIVA PRODUCER	A. 17A UNIDAD PROFESIONAL ZACATENCO EDIF. LAB. LIGEROS SALON 201	
MEXICO	MR. GERARDO MARTINEZ CORCHADO (8601338)	1986 7/23 - 1986 10/6	テレビの制作 (10)	DIRECCION DE PUBLICACIONES Y MEDIOS (UTEC) ENGINEER OF MAINTENANCE DEPARTMENT. SUPERVISOR DE MAINTENANCE	CIRCUNVALACION Y TABIQUEROS COLONIA MORELOS, MEXICO	
MEXICO	MR. RAFAEL GERARDO FOUILLOUX MORALES (8601943)	1986 8/4 - 1986 10/6	テレビの制作 (10)	DIRECCION GENERAL DE PUBLICACIONES Y MEDIOS (UTEC) PRODUCCION DE PROGRAMAS EDUCATIVOS COORDINADOR/PRODUCTOR DE PRODUCCION	AV. CIRCUNVALACION Y TABIQUEROS S/N MORELOS, MEXICO D. F.	
MEXICO	MR. BULMARO SANCHEZ HERNANDEZ (8604828)	1987 1/19 - 1987 3/9	テレビの制作 (10)	UNIDAD DE TELEVISION EDUCATIVA Y CULTURALS. E. P. LIGHTNING ENGINEERING ENGINEERING CHIEF	CALZ CIRCUNVALACION S/N ESQ TABIQUE ROS COL MORELOS C. P. 15270 MEXICO	
MEXICO	MR. MARIO TORRES CORTES (8604830)	1987 1/19 - 1987 3/9	テレビの制作 (10)	UNIDAD DE TELEVISION EDUCATIVA Y CULTURE DEPARTMENT PROGRAMS PRODUCTION T. V. PRODUCER	CALZADA CIRCUNVALACION Y TABIQUEROS COLONIA MORELOS MEXICO D. F.	
MEXICO	MR. NIFTALI ENRIQUE PENALFOR VALDIZ (8702467)	1987 7/20 - 1987 9/21	テレビの制作 (10)	DIRECCION GENERAL DE PUBLICACIONES Y MEDIOS UTEC PRODUCTION OF TELEVISION EDUCATIONAL PRODUCER TV.	CIRCUNVALACION Y TABIQUEROS COLONIA MORELOS MEXICO D. F.	
MEXICO	MR. RICARDO VAZQUEZ (8704934)	1988 1/18 - 1988 3/7	テレビの制作 (10)	UNIDAD DE TELEVISION EDUCATION MINISTRY PRODUCTION PRODUCER	AV. CIRCUNVALACION Y TABIQUEROS COL. MOZELLOS DISTRITO TETI, MEXICO	
MEXICO	MR. JESUS NOTO CRUZ (8704824)	1988 1/20 - 1988 3/7	テレビの制作 (10)	SECRETARIA DE EDUCACION PUBLICA TECHNICAL DEPARTMENT	AV. CIRCUNVALACION ESQ TABIQUEROS COL MORELOS MEXICO D. F. C. P. 5720	
MEXICO	MS. GLADIALUPE DEL CARMEN MARQUEZ GISENA (8804462)	1989 1/16 - 1989 3/15	テレビの制作 (10)	DIRECCION GENERAL DE PUBLICACIONES Y MEDIOS UTEC CULTURAL PROGRAMMES TV PRODUCER	CALZ CIRCUNVALACION ESQ TABIQUEROS S/N COLONIA MORELOS MEXICO D. F.	
MEXICO	MR. ARTURO SANTAMARIA ALDAMA (8805065)	1989 1/16 - 1989 3/15	テレビの制作 (10)	DIRECCION GENERAL DE PUBLICACIONES MEDIOS SUB DIRECCION TRANCA	CALZ CIRCUNVALACION ESQ TABIQUEROS 2A COL MORELOS MEXICO DF	

() : 研修員番号

(10): 集団 (15): 特別案件

(20): 単発 (22): G・G

(24): C/P (26): 国際機関

(2): 準高級研修員 (3): 高級研修員

LIST OF PARTICIPANTS

COUNTRY	NAME	DURATION	TRAINING SUBJECT	ORGANIZATION & POSITION	ADDRESS OF ORGANIZATION	REMARKS
MEXICO	MR. LUCIANO SAAVEDRA LEONA	1990 1/15 1990 3/4	428 5 32 4077 4 5 27 (0 30420)	UNIT OF EDUCATION TELEVISION OF MINISTRY OF EDUCATION TECHNICAL POBATION MANAGER TECHNICAL (10)	AVENIDA CIRCONVALACION Y CALLE TABIQUEROS COL. MORELOS MEXICO D. F.	
MEXICO	MS. LUZ DEL CARMEN V. L. VERGARA L.	1990 1/15 1990 3/4	428 5 32 4077 4 5 27 (0 30420)	DIRECCION GENERAL DE TELEVISION UNIVERSITARIA PRODUCTION PRODUCER OF SCIENTIFIC PROGRAMMER (10)	CIRCUITO MARIO DE LA CUEVA S/N CIUDAD UNIVERSITARIA MEXICO DF	
MEXICO	MR. NEFTALI E. PENAFLO VALDEZ	1990 1/15 1990 3/4	428 5 32 4077 4 5 27 (0 30420)	UNIDAD DE TELEVISION EDUCATIVA PRODUCTION TV PRODUCER CIRCONVALACION Y TABIQUEROS DOL. MOR (10)	ELOS MEXICO D. F.	
MEXICO	MR. ROBERTO PINEDA BONILLA	1990 7/16 1990 9/30	428 5 32 4077 4 5 27 (0 30420)	TELEVISIA S. A. VTR DEP ENGINEER (10)	AV CHAPULTEPEC #28 COL. ICAREZ	
MEXICO	MR. SAMUEL RICHARDO HERRANDEZ	1991 1/14 1991 3/3	428 5 32 4077 4 5 27 (0 30420)	EDUCATIONAL TELEVISION UNIT PRODUCTION REALIZATION COORDINATOR (10)	CIRCONVALACION Y TABIQUEROS S/N COL. MORALOS C. P. MEXICO D. F.	
MEXICO	MR. ROBERTO VERDALET RAMIREZ	1991 1/14 1991 3/4	428 5 32 4077 4 5 27 (0 30420)	EDUCATIONAL TELEVISION UNIT MAINTENANCE ENGINEER TELEVISION MAINTENANCE ENGINEER CHIEF (10)	CIRCONVALACION Y TABIQUEROS S/N. COL. MORELOS MEXICO D. F.	
MEXICO	MS. MÓNICA YOLANDA NAVARRO SANCHEZ	1992 7/14 1992 9/27	428 5 32 4077 4 5 27 (0 30420)	COORDINATOR AND PRODUCER EDUCATIVE TELEVISION UNIT (U. T. E.) (10)	20 DE AGOSTO #27-303. PASEOS DE TAXQUENA. DELEG COYOACAN C. P. 04250 MEXICO, D. F.	
MEXICO	MR. MARGARITO RODRIGUEZ GUTIERREZ	1993 1/11 1993 3/7	428 5 32 4077 4 5 27 (0 30420)	HEAD CHIEF OF ELECTRONIC MAINTENANCE. UNIDAD DE TELEVISION EDUCATIVA (UTE) (10)	TRIGO 206-1 COL. VALLF DEL SUR. DELEGACION IZTAPALAPA C. P. 09810 MEXICO, D. F.	
MEXICO	MR. GERARDO GARCIA GUZMAN	1992 7/14 1992 9/27	428 5 32 4077 4 5 27 (0 30420)	MAINTENANCE HEAD. ENGINEERING & MAINTENANCE DEPT. UNIDAD DE TELEVISION EDUCATIVA (10)	24. CDA. AV. 545 NO. 3 COL. SAN JUAN DE ARAGON DELEG. GAM	
MEXICO	MS. MARIA DEL ROSARIO RAMOS CAMPOS	1993 1/11 1993 3/7	428 5 32 4077 4 5 27 (0 30420)	PRODUCER TV CHANNEL 4 (GOVERNMENT TV) (10)	SONORA 67. JALAPA. VERACRUZ. MEXICO	
MEXICO	MR. LUIS MANUEL HERNANDEZ GONZALEZ	1993 1/11 1993 3/7	428 5 32 4077 4 5 27 (0 30420)	ENGINEER OF MAINTENANCE. TELEVISION DEPARTMENT EDUCATIONAL TELEVISION UNITY (10)	EDIF M3 DEPIO 402 RIES BROTANTES. COL. HIDALGO TLALPAM D. F. C. P. 14410	

LIST OF PARTICIPANTS

COUNTRY	NAME	DURATION	TRAINING SUBJECT	ORGANIZATION & POSITION	ADDRESS OF ORGANIZATION	REMARKS
CHILE	MR. OSCAR ARAYA OJEDA (8701484)	1987 7/19 1987 10/5	746 5 30 #079 4 5 30(479) (10)	TELEVISION NACIONAL DE CHILE DEPARTAMENTO DE PRENSA CAMERAMAN	BELLAVISTA 0990 SANTIAGO CHILE	
CHILE	MS. TESMER MARAMBIO MARIA GABRIELA (7605184)	1976 7/22 1976 10/11	746 5 30 #079 4 5 30 2-3 (10)			
CHILE	MS. FUENTES AITA IRIS LUIS DE LOURDES (7706879)	1977 7/22 1977 10/10	746 5 30 #079 4 5 30 2-3 (10)	TELEVISION NACIONAL DE CHILE TV. EDUCATIVE PROGRAMS DIRECTOR	BELLAVISTA 0990 SANTIAGO	
CHILE	MS. CECILIA GUITART CERDA (8101284)	1981 7/16 1981 10/5	746 5 30 #079 4 5 30 2-3 (10)	UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE TELEDUC. GENERAL COORDINATION DEPT. GENERAL COORDINATOR	AVENIDA BERNARDO O'HIGGINS 340 SANTIAGO DE CHILE	
CHILE	MS. MARIA TERESA GUZMAN CORREA (8201180)	1982 7/15 1982 10/4	746 5 30 #079 4 5 30 2-3 (10)	PONTIFICIA UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE PROGRAMA DE MEDIOS AUDIOVISUALES DIRECTOR OF PRODUCTION	DIAGONAL ORIENTE 3300 SANTIAGO CHILE	
CHILE	MR. ALEJANDRO OLIVOS (8203114)	1983 1/8 1983 3/14	746 5 30 #079 4 5 30(2)2-3 (10)	CORPORACION TELEVISION UNIVERSIDAD DE CHILE ENGINEERING DEPT MANAGER	INES MATTE URIBEOLA 0825	
CHILE	MR. OLEA BECERRA LEONARDO (8401238)	1984 8/5 1984 10/8	746 5 30 #079 4 5 30(1)2-3 (10)	O. V. C. PRODUCCIONES PRODUCER	PEDRO DE VALDIVIA NO. 2712-110 SANTIAGO CHILE	
CHILE	MR. GUILLERMO FERNANDO VALLEJO LEMUS (8508027)	1985 8/2 1985 10/7	746 5 30 #079 4 5 30(1)2-3 (10)	TELEVISION NACIONAL DE CHILE DRAMATIC AREA EDITOR	BELLAVISTA 0990 SANTIAGO CHILE	
CHILE	MR. FRANCISCO JAVIER SALAZAR NAVARRO (8805169)	1989 1/16 1989 3/5	746 5 30 #079 4 5 30 (10)	EDUCATIONAL TELEVISION CENTER AUSTRAL UNIVERSITY OF CHILE EDUCATIONAL TELEVISION CENTER CANAL 10TV	CAMPUS ISLA TEJA	
CHILE	MR. ERIF SELIM BALUT CORONA (8805167)	1989 1/16 1989 3/5	746 5 30 #079 4 5 30 (10)	CORPORACION DE TELEVISION UNIVERSIDAD DE CHILE GERENCIA DE INGENIERIA JEFE MANTENCION	INES MATTE URIBEOLA 0825 PROVIDENCIA SANTIAGO	
CHILE	MR. ALEJANDRO ROJAS (8905873)	1990 1/15 1990 3/4	746 5 30 #079 4 5 30 (10)	CORPORACION DE TELEVISION DE LA UNIV. CATOLICA DE CHILE PRODUCTION DIRECTOR T.V.	TUES MATTE URIBEROS 0848 STGO CHILE	
CHILE	MR. ORIEL ALFREDO ZEPEDA EGANA (8905313)	1990 1/15 1990 3/4	746 5 30 #079 4 5 30 (10)	TELEVISION NACIONAL DE CHILE SUBGERENCIA OPERATIONS TECHNICAL SUPERVISOR	BELLAVISTA 0990 PROVIDENCIA SANTIAGO CHILE	
CHILE	MS. JACQUELINE SAAVEDRA VERA (9205927)	1992 7/14 1992 9/27	746 5 30 #079 4 5 30 (10)	ASSISTANT PRODUCER NATIONAL TELEVISION OF CHILE	HERMANOS CABOT 6689 LAS CONDES. SANTIAGO, CHILE	
CHILE	MR. MIGUEL ANGEL MONTALVA FERNANDEZ	1993 1/1 1993 3/7	746 5 30 #079 4 5 30 (10)	PRODUCER, DIRECTOR/OPERATION HEAD UNIVERSITY AUSTRAL OF CHILE	POBLACION PICARTE 3000 A. VILLANUEVA 040 VALDIVIA CHILE	

2. 英文調查團概要

THE FOLLOW-UP TEAM FOR THE EX-PARTICIPANTS
OF THE JICA GROUP TRAINING COURSES
IN
THE FIELD OF TELEVISION ENGINEERING AND PROGRAMME PRODUCTION

- Television Engineering
- Television Programme Production
- Television Programme Production Engineering II
- Television Social Education Programme II

November 1993

I . OBJECTIVE

Television Broadcasting is widely regarded as an effective and efficient means to spread education and information.

Meanwhile, recent development in micro-electronics technology has made it possible for hardware to make great progress and for software to change enormously. As a result, international exchange of television Programmes has been steadily increasing.

Television is a very strong mass communications media and it is going to play more and more important role in modern society.

In order to provide further incentive for a future development, the Japan International Cooperation Agency (JICA) holds an open seminar for the ex-participants in its training programme and their colleagues to present the latest information on Television Engineering and Television Programme Production. At the same time we try to have a proper understanding of the local situation in the field of television Broadcasting through questionnaires and observations, which will be a guideline for the future planning of the four group training courses for which this follow-up mission was organized.

II . PERIOD

From November 01 to 08, 1993.

III . SCHEDULE OF THE FOLLOW-UP TEAM

Nov. 01(Mon.) · Arr. Mexico City

- 03(Wed.) · Observation of CETE / UTE
- Interview with the Director of UTE
 - Interview with ex-participants
 - Observation of TELEVISA

04(Thu.) · Seminar on Television Engineering and Programme Production
at CETE

- 05(Fri.) · Seminar continued
- Post-Seminar Reception Hosted by the Team

- 08(Mon.) · Courtesy Call to the Embassy o Japan
- Courtesy Call to the Ministry of Foreign Affairs
 - Report to JICA Office
 - Dep. Mexico City

IV SEMINAR AGENDA

ITINERARIO DEL SEMINARIO DE SEGUIMIENTO PARA EXBECARIOS DE JICA
EN EL AREA DE "INGENIERIA Y PRODUCCION DE PROGRAMAS DE TELEVISION"

1st Day (November 4)

"Introduction of the JICA Activities"

"Major Policies of the Japanese Broadcasting Administration"

"Effectively use of the High Definition Television in
the Television Social Education Programme Production"

2nd Day (November 5)

"Digitalization of Television Broadcasting"

3. サマリーレポート

Mexico City, November 08, 1993

Dear Sir

It is my great pleasure to submit the summary report of the Follow-up Team for Ex-participants of Group Training Courses in the field of Television Engineering and Programme Production (Television Engineering, Television Programme Production, Television Programme Production Engineering II, Television Social Education Programme II.)

The Team, which was dispatched by the Japan International Cooperation Agency as a part of its technical follow-up programme for ex-participants, and consists of four members as mentioned in the report, arrived in Mexico on November 01, 1993. Through the visit of this time, we could obtain many valuable comments and suggestions about the above-mentioned four group training courses from the competent authorities concerned and also from the ex-participants and other people around them. We are quite sure that the information we acquired should be greatly useful for the purpose of improving these courses and also the entire technical cooperation programme.

Finally I would like to express my heartiest appreciation for your warm hospitality and kind cooperation extended to us during our stay in your country.

Yours faithfully,

渡辺正喜

Masaki Watanabe

Team Leader

SUMMARY REPORT

BY

THE FOLLOW-UP TEAM FOR THE EX-PARTICIPANTS
OF THE JICA GROUP TRAINING COURSES

IN

THE FIELD OF TELEVISION ENGINEERING AND PROGRAMME PRODUCTION

- Television Engineering
- Television Programme Production
- Television Programme Production Engineering II
- Television Social Education Programme II

November 1993

INDEX

- I . OBJECTIVE
- II . PERIOD
- III . MEMBERS
- IV . SCHEDULE OF THE FOLLOW-UP TEAM
- V . PERSONNEL IN MEXICO WHOM THE TEAM MET
- VI . SEMINAR AGENDA
- VII . IMPRESSION OF THE TEAM

I . OBJECTIVE

Television Broadcasting is widely regarded as an effective and efficient means to spread education and information.

Meanwhile, recent development in micro-electronics technology has made it possible for hardware to make great progress and for software to change enormously. As a result, international exchange of television Programmes has been steadily increasing.

Television is a very strong mass communications media and it is going to play more and more important role in modern society.

In order to provide further incentive for a future development, the Japan International Cooperation Agency (JICA) holds an open seminar for the ex-participants in its training programme and their colleagues to present the latest information on Television Engineering and Television Programme Production. At the same time we try to have a proper understanding of the local situation in the field of television Broadcasting through questionnaires and observations, which will be a guideline for the future planning of the four group training courses for which this follow-up mission was organized.

II . PERIOD

From November 01 to 08, 1993.

III . MEMBERS

(1) Masaki Watanabe (Team Leader)

Chief, Sounds Broadcasting Section,
Engineering Division,
Broadcasting Bureau,
Ministry of Posts and Telecommunications

(2) Yoshiharu Matsuda (Technical Instructor)

Senior Director,
NHK Communications Training Institute

(3) Sumio Matsuoka (Technical Instructor)
Senior Director,
NHK Communications Training Institute

(4) Mika Yamamoto (Coordination)
Training Officer,
First Training Division,
Tokyo International Centre,
Japan International Cooperation Agency

IV . SCHEDULE OF THE FOLLOW-UP TEAM

- Nov. 01(Mon.) · Arr. Mexico City
· Meeting for arrangement of the seminar
- 02(Tue.) · Preparation for seminar
- 03(Wed.) · Observation of CETE / UTE
· Interview with the Director of UTE
· Interview with ex-participants
· Observation of TELEVISA
- 04(Thu.) · Seminar on Television Engineering and Programme Production
at CETE
- 05(Fri.) · Seminar continued
· Post-Seminar Reception Hosted by the Team
- 06(Sat.) · Draft Summary of Report
- 07(Sun.) · Draft Summary of Report
- 08(Mon.) · Courtesy Call to the Embassy o Japan
· Courtesy Call to the Ministry of Foreign Affairs
· Report to JICA Office
· Dep. Mexico City

V . PERSONNEL IN MEXICO WHOM THE TEAM MET

(1) TRAINING CENTER OF EDUCATIONAL TELEVISION (CETE)

Mr. PEDRO SABAU GARCIA :DIRECTOR GENERAL
Mr. JOSE LUIS MARTINEZ :DUPTY DIRECTOR
9 EX-PARTICIPANTS List of the attendants omitted

(2) UNIDAD DE TELEVISION EDUCATIVA (UTE)

Mr. MARIO A. HERNANDEZ MOCTEZUMA
:SPECIAL SECRETARY OF THE DIRECTOR GENERAL

(3) TELEVISA

Mr. ROBERTO PINEDA BONILLA (Ex-participants)
:ENGINEER, VTR DEPARTMENT

(4) Open Seminar

53 attendants. List of the attendants omitted.

VI SEMINAR AGENDA

ITINERARIO DEL SEMINARIO DE SEGUIMIENTO PARA EXBECARIOS DE JICA
EN EL AREA DE "INGENIERIA Y PRODUCCION DE PROGRAMAS DE TELEVISION"

1st Day (November 4)

"Introdution of the JICA Activities"
"Major Policies of the Japanese Broadcasting Administration"
"Effectively use of the High Definition Television in
the Television Social Education Programme Production"

2nd Day (November 5)

"Digitalization of Television Broadcasting"

VII. THE IMPRESSION OF THE TEAM

(LATER WE WILL SEND THE REPORT ABOUT THIS FOLLOW-UP TEAM.)

Finally we whoud like to experess our heartfelt gratitude to all the respective authorities concerned, their superiors and our dear ex-participants for their kind cooperation, assistance and hospitalities. We could not have carried out his work in the short time given to us if if had not been tremendous help rendered by those who are concerned.

Thank you very much.

[CHILE]

THE FOLLOW-UP TEAM FOR THE EX-PARTICIPANTS
OF THE JICA GROUP TRAINING COURSES

IN

THE FIELD OF TELEVISION ENGINEERING AND PROGRAMME PRODUCTION

- Television Engineering
- Television Programme Production
- Television Programme Production Engineering II
- Television Social Education Programme II

November 1993

I . OBJECTIVE

Television Broadcasting is widely regarded as an effective and efficient means to spread education and information.

Meanwhile, recent development in micro-electronics technology has made it possible for hardware to make great progress and for software to change enormously. As a result, international exchange of television Programmes has been steadily increasing.

Television is a very strong mass communications media and it is going to play more and more important role in modern society.

In order to provide further incentive for a future development, the Japan International Cooperation Agency (JICA) holds an open seminar for the ex-participants in its training programme and their colleagues to present the latest information on Television Engineering and Television Programme Production. At the same time we try to have a proper understanding of the local situation in the field of television Broadcasting through questionnaires and observations, which will be a guideline for the future planning of the four group training courses for which this follow-up mission was organized.

II . PERIOD

From November 09 to 15, 1993.

III . SCHEDULE OF THE FOLLOW-UP TEAM

Nov. 09(Tue.) · Arr. Santiago

10(Wed.) · Observation of CORPORATION DE TELEVISION
UNIVERSIDAD DE CHILE (CANAL 13)
· Courtesy Call to the Embassy of Japan

11(Thu.) · Seminar on Television Engineering and Programme
Production at Hotel Carrera

12(Fri.) · Seminar continued
· Post-Seminar Reception Hosted by the Team

15(Mon.) · Observation of TELEVISION NATIONAL DE CHILE
· Report to JICA Office
· Dep. Santiago

IV SEMINAR AGENDA

ITINERARIO DEL SEMINARIO DE SEGUIMIENTO PARA EXBECARIOS DE JICA
EN EL AREA DE "INGENIERIA Y PRODUCCION DE PROGRAMAS DE TELEVISION"

1st Day (November 11)

"Introduction of the JICA Activities"

"Major Policies of the Japanese Broadcasting Administration"

"Effectively use of the High Definition Television in
the Television Social Education Programme Production"

2nd Day (November 12)

"Digitalization of Television Broadcasting"

Santiago, November 15, 1993

Dear Sir

It is my great pleasure to submit the summary report of the Follow-up Team for Ex-participants of Group Training Courses in the field of Television Engineering and Programme Production (Television Engineering, Television Programme Production, Television Programme Production Engineering II, Television Social Education Programme II.)

The Team, which was dispatched by the Japan International Cooperation Agency as a part of its technical follow-up programme for ex-participants, and consists of four members as mentioned in the report, arrived in Chile on November 09, 1993. Through the visit of this time, we could obtain many valuable comments and suggestions about the above-mentioned four group training courses from the competent authorities concerned and also from the ex-participants and other people around them. We are quite sure that the information we acquired should be greatly useful for the purpose of improving these courses and also the entire technical cooperation programme.

Finally I would like to express my heartiest appreciation for your warm hospitality and kind cooperation extended to us during our stay in your country.

Yours faithfully,

渡辺 正喜

Masaki Watanabe

Team Leader

SUMMARY REPORT

BY

THE FOLLOW-UP TEAM FOR THE EX-PARTICIPANTS
OF THE JICA GROUP TRAINING COURSES

IN

THE FIELD OF TELEVISION ENGINEERING AND PROGRAMME PRODUCTION

- Television Engineering
- Television Programme Production
- Television Programme Production Engineering II
- Television Social Education Programme II

November 1993

INDEX

I . OBJECTIVE

II . PERIOD

III . MEMBERS

IV . SCHEDULE OF THE FOLLOW-UP TEAM

V . PERSONNEL IN CHILE WHOM THE TEAM MET

VI . SEMINAR AGENDA

VII . IMPRESSION OF THE TEAM

I . OBJECTIVE

Television Broadcasting is widely regarded as an effective and efficient means to spread education and information.

Meanwhile, recent development in micro-electronics technology has made it possible for hardware to make great progress and for software to change enormously. As a result, international exchange of television Programmes has been steadily increasing.

Television is a very strong mass communications media and it is going to play more and more important role in modern society.

In order to provide further incentive for a future development, the Japan International Cooperation Agency (JICA) holds an open seminar for the ex-participants in its training programme and their colleagues to present the latest information on Television Engineering and Television Programme Production. At the same time we try to have a proper understanding of the local situation in the field of television Broadcasting through questionnaires and observations, which will be a guideline for the future planning of the four group training courses for which this follow-up mission was organized.

II . PERIOD

From November 09 to 15, 1993.

III . MEMBERS

- (1) Masaki Watanabe (Team Leader)
Chief, Sounds Broadcasting Section,
Engineering Division,
Broadcasting Bureau,
Ministry of Posts and Telecommunications

- (2) Yoshiharu Matsuda (Technical Instructor)
Senior Director,
NHK Communications Training Institute

(3) Sumio Matsuoka (Technical Instructor)
Senior Director,
NHK Communications Training Institute

(4) Mika Yamamoto (Coordination)
Training Officer,
First Training Division,
Tokyo International Centre,
Japan International Cooperation Agency

IV. SCHEDULE OF THE FOLLOW-UP TEAM

- Nov. 09(Tue.) · Arr. Santiago
· Visit to JICA office for arrangement of the seminar
- 10(Wed.) · Observation of CORPORATION DE TELEVISION
UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE (CANAL 13)
· Courtesy Call to the Embassy of Japan → 11/15 (Mon.-)
· Preparation for Seminar
- 11(Thu.) · Seminar on Television Engineering and Programme Production
at Hotel Carrera
- 12(Fri.) · Seminar continued
· Post-Seminar Reception Hosted by the Team
- 13(Sat.) Draft Summary of Report
- 14(Sun.) Draft Summary of Report
- 15(Mon.) · Observation of TELEVISION NACIONAL DE CHILE → 11/19 (Tue.-)
· Report to JICA Office
· Report to the Agencia de Cooperación Internacional (AGCI)
· Dep. Santiago

V . PERSONNEL IN CHILE WHOM THE TEAM MET

(1) CORPORATION DE TELEVISION UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE

GABRIEL BRAVO LYON (Director de Television)
RUBY ANNE GUMPERTZ S. (Director de Producción)

(2) TELEVISION NATIONAL DE CHILE

JORGE NAVARRETE MARTINEZ (Director Ejecutivo)
HECTOR NAVARRETE (Jefe de Gabinete Director Ejecutivo)
IRIS FUENTES
JAIME R. ESCOBAR ABARCA

(3) Open Seminar

23 attendants. List of the attendants omitted.

VI SEMINAR AGENDA

ITINERARIO DEL SEMINARIO DE SEGUIMIENTO PARA EXBECARIOS DE JICA
EN EL AREA DE "INGENIERIA Y PRODUCCION DE PROGRAMAS DE TELEVISION"

1st Day (November 11)

"Introduction of the JICA Activities"
"Major Policies of the Japanese Broadcasting Administration"
"Effectively use of the High Definition Television in
the Television Social Education Programme Production"

2nd Day (November 12)

"Digitalization of Television Broadcasting"

VII. THE IMPRESSION OF THE TEAM

(LATER WE WILL SEND THE REPORT ABOUT THIS FOLLOW-UP TEAM.)

Finally we would like to express our heartfelt gratitude to all the respective authorities concerned, their superiors and our dear ex-participants for their kind cooperation, assistance and hospitalities. We could not have carried out his work in the short time given to us if it had not been tremendous help rendered by those who are concerned.

Thank you very much.

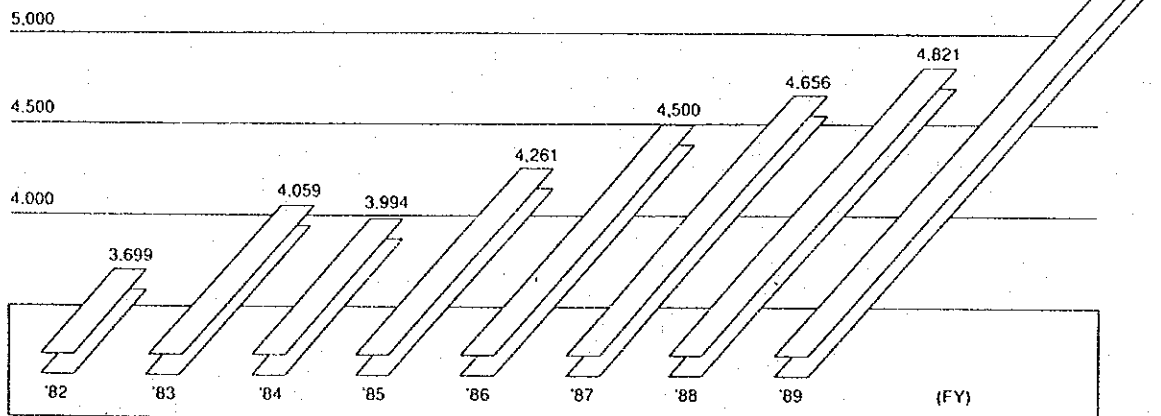
4. セミナーテキスト類

研修員受入実績

Performance of Training Programme for Overseas Participants

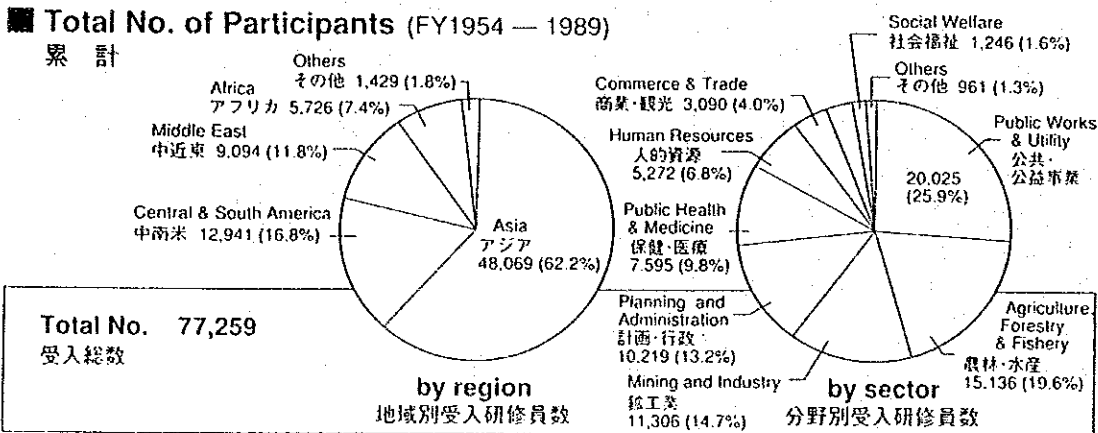
■ No. of Participants by Year

研修員受入数の推移



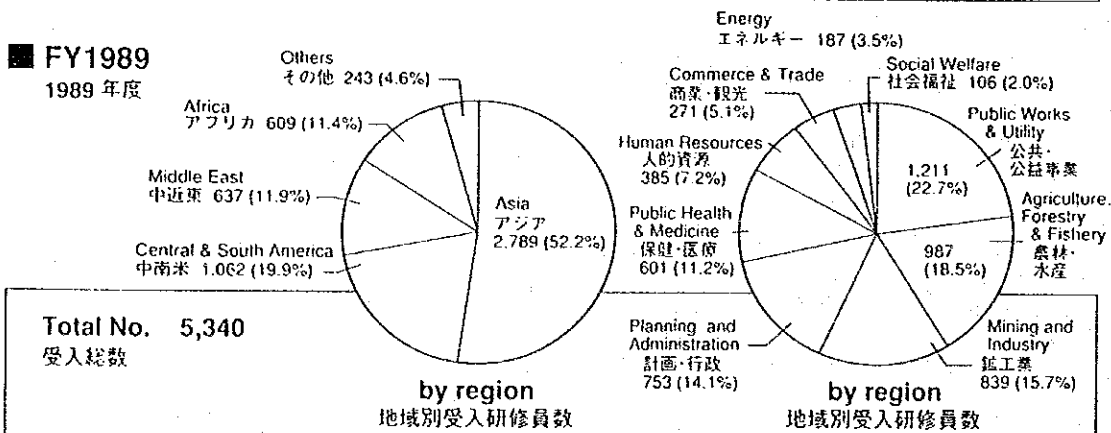
■ Total No. of Participants (FY1954 — 1989)

累計



■ FY1989

1989年度



**PRINCIPALES POLÍTICAS
DEL GOBIERNO JAPONÉS
EN MATERIA DE DIFUSIÓN**

Setiembre de 1993

Ministerio de Correos y Telecomunicaciones

Índice

I. Sistema de Control en Materia de Difusión	1
II. Reseña de la Difusión	2
III. Progreso hacia los Multimedia y Multicanales	4
1. Últimos Desarrollos de la Transmisión por Satélite	4
2. Difusión de la Televisión de Alta Definición (HDTV)	5
3. Desarrollo de la Difusión de Televisión por Cable	6
4. Expansión y Mejoramiento de Programas de Difusión	8
IV. Contribución a la Revitalización de las Actividades Sociales Regionales a través de la Difusión	9
V. Promoción de Medidas para la Internacionalización a través de la Difusión	11
VI. Estudios sobre Tecnologías de Difusión y Establecimiento de Sistemas Normales	13

Apéndice

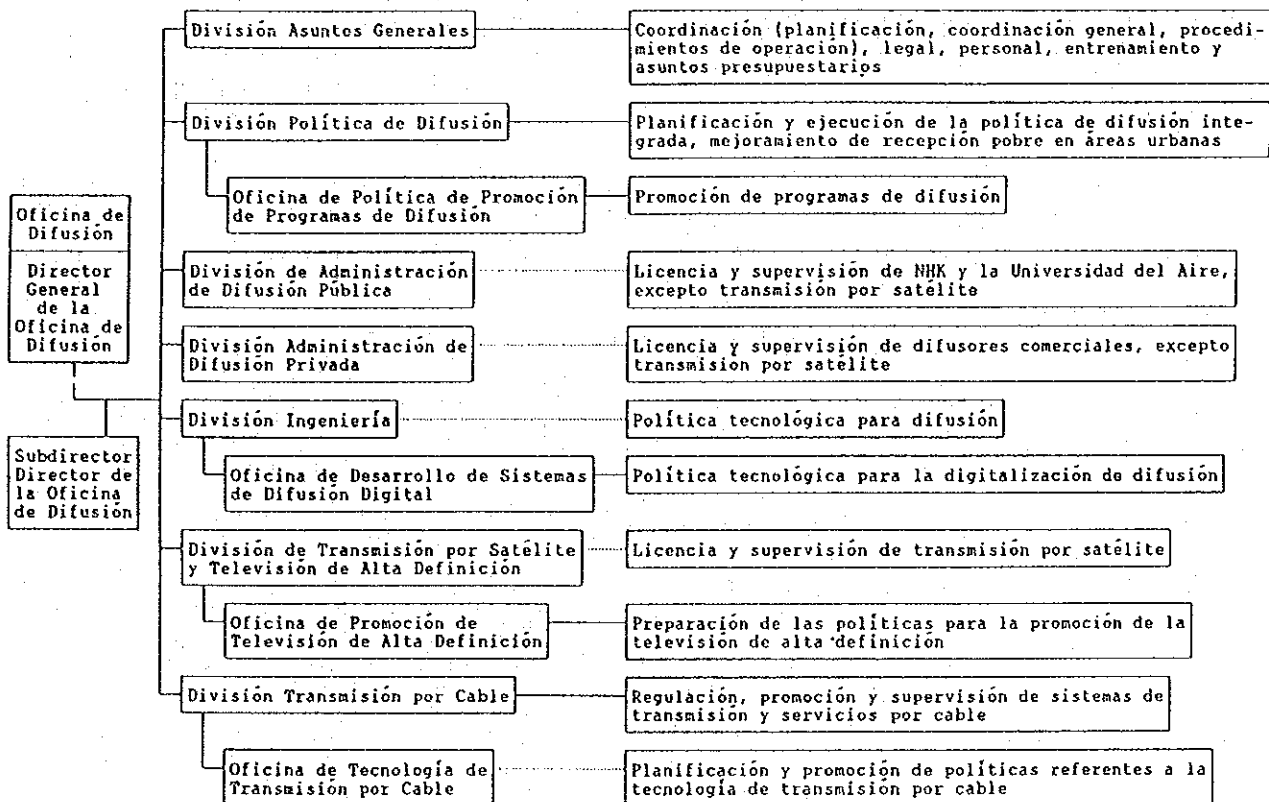
Apéndice 1 Cantidad de Emisoras	14
Apéndice 2 Asignación de Frecuencias para las Emisoras	15
Apéndice 3 Cantidad de Estaciones Emisoras	18
Apéndice 4 Estado Actual de NHK	19
4-1. Historia de la Difusión	19
4-2. Modificación de las Tasas de Recepción Mensual	20
4-3. Ingresos Comerciales, Gastos y Cantidad de Contratos de Recepción	21
4-4. Ingresos Comerciales de NHK y Emisoras Comerciales	22
Apéndice 5 Estado Actual de la Televisión por Cable	23
Apéndice 6 Futuro Desarrollo de la Difusión	25
Apéndice 7 Historia de la Difusión	26

I. Sistema de Control en Materia de Difusión

En Japón, los negocios y actividades de telecomunicación, incluyendo la radiodifusión y teledifusión, son supervisados por el Ministerio de Correos y Telecomunicaciones (MPT). Entre ellos, la radiodifusión y teledifusión, incluyendo la difusión alámbrica, está bajo el control de la Oficina de Difusión del MPT.

La Oficina de Difusión asume unitariamente el control de la difusión con el propósito de mantener la disciplina de difusión y lograr el aseguramiento del desarrollo sano de la difusión. Sus principales funciones incluyen la planificación de la política concerniente a la radiodifusión, teledifusión, televisión por cable y otros tipos de difusión, la promoción de esas políticas y el otorgamiento de licencia y supervisión de las estaciones de difusión. Cuenta con 11 oficinas regionales en todo el Japón para garantizar el control normal de la difusión.

ORGANIZACIÓN Y RESPONSABILIDADES DE LA OFICINA DE DIFUSIÓN



II. Reseña de la Difusión

1. Sistemas de Difusión en Japón

Dentro de la industria de difusión coexisten la NHK (Nippon Hoso Kyokai; Corporación de Difusión de Japón) y las emisoras comerciales. Mientras que la NHK fue establecida para difundir en todo el país de acuerdo con la Ley de Difusión, las emisoras comerciales son entidades comerciales cuyo esquema de dirección y las fuentes financieras son esencialmente manejados a su discreción. La Fundación de la Universidad del Aire, que fue establecida bajo la Ley de la Fundación de la Universidad del Aire, es otra emisora educacional que utiliza la difusión. Todos estos negocios de difusión son regulados por la Ley de Radio y la Ley de Difusión.

2. NHK

NHK fue establecida en 1950 bajo la Ley de Difusión con el fin de promover el bienestar público a través de la difusión a nivel nacional.

La Ley de Difusión establece las regulaciones concernientes a la organización, directorio y operaciones comerciales de NHK. Sin embargo, debido a su particular posición como medio de información que difiere de las demás organizaciones gubernamentales, se ha otorgado un alto grado de autonomía en relación a su personal y presupuesto.

1) Reseña de las Operaciones

NHK asume principalmente los siguientes asuntos comerciales.

a) Difusión Local

- * Radiodifusión de AM
- * Radiodifusión de FM
- * Teledifusión (terrestre y satelital)
- * Transmisión múltiplex (TV/sonido múltiplex, teletexto)

Entre estos tipos de difusión, NHK está obligada a emitir a nivel nacional tanto los programas de radiodifusión de AM o radiodifusión de FM como los programas de teledifusión.

b) Investigación y estudios necesarios para el perfeccionamiento y desarrollo de la difusión y su recepción.

c) Servicio de difusión en el exterior

Los servicios de difusión en el exterior, incluyendo aquellos controlados por el Ministro de MPT y los originariamente ofrecidos por NHK, se difunden por onda corta en 22 lenguajes por un total de 60 horas diarias.

Los servicios de difusión en el exterior son retransmitidos por seis estaciones del exterior, ubicadas en Gabón, Canadá, Guiana, Sri Lanka, Reino Unido y Singapur. Se planifican mayores mejoras y perfeccionamientos de la difusión en el exterior.

2) Sistema de Tarifas de Recepción

La tarifa de recepción es el principal recurso financiero de NHK. La Ley de Difusión estipula que los hogares que estén equipados con un receptor

capaz de recibir los servicios de difusión de NHK, deben contratar con NHK la recepción de la difusión.

La tarifa mensual es decidida por la Dieta, que al mismo tiempo aprueba el presupuesto de ingresos y gastos de NHK.

3. Emisoras Comerciales

1) Regulaciones para las Emisoras Comerciales

Ni la Ley de Radio ni la Ley de Difusión estipula la forma de manejo, organización o fuente financiera de las emisoras comerciales. La Ley de Difusión sólo establece las regulaciones sobre los programas y la aprobación de las condiciones contractuales para la difusión por abono.

2) Políticas del otorgamiento de licencias

Las siguientes son las políticas de otorgamiento de licencias relacionadas con las emisoras comerciales.

a) La emisora no deberá ser a nivel nacional (salvo las emisoras de onda corta y emisoras por satélite).

b) En principio, el servicio de difusión deberá basarse en la comunidad (prefectura o distrito).

c) La licencia para la explotación no deberá causar la concentración de medios masivos de difusión. Se prohíbe la pertenencia única de todas las formas de medios (TV, radio y diarios). También se prohíbe la pertenencia múltiple de estaciones de TV o radio.

3) Circunstancias Actuales de las Emisoras Comerciales

Las emisoras comerciales se han desarrollado dramáticamente desde las 16 radioemisoras de AM y una teledifusora cuyas licencias preliminares fueron otorgadas en 1951 y 1952 respectivamente. Con respecto a la difusión terrestre, la cantidad de emisoras incluyendo la televisión, AM, FM y onda corta y las emisoras de teletexto totalizaban 181 compañías en Junio de 1992. En cuanto a las emisoras por satélite, una emisora de televisión, una emisora múltiplex de sonido de televisión independiente iniciaron las operaciones en noviembre de 1990. En el área de difusión por satélite, desde abril de 1992 iniciaron las operaciones seis emisoras de televisión y cuatro emisoras de sonido por PCM.

4. Fundación de la Universidad del Aire

1) Objetivos

La Fundación de la Universidad del Aire fue fundada en 1981 bajo la Ley de Fundación de la Universidad del Aire. La Fundación de la Universidad del Aire tiene como fin responder a una amplia gama de demanda en la educación de nivel universitario y la difusión y desarrollo de la difusión dirigida a la educación de nivel universitario.

2) Reseña de las operaciones

Matriculando a los estudiantes desde 1985, la Fundación de la Universidad del Aire inició los servicios de difusión de varios cursos a través de la televisión de UHF y la radiodifusión de FM, dirigidos a una parte del Distrito de Kanto como su área de cobertura.

III. Progreso hacia los Multimedia y Multicanales

1. Últimos Desarrollos de la Transmisión por Satélite

En el área de la difusión de la transmisión por satélite (difusión por BS = Satélite de Difusión), NHK y una emisora comercial están ofreciendo los programas de teledifusión y una emisora comercial realiza la difusión de sonido y televisión de alta definición (Hi-Vision) sobre base experimental.

Japón modificó parcialmente la Ley de Difusión y la Ley de Radio en junio de 1989, introduciendo el nuevo sistema de difusión, consistente en el uso común de satélites por emisoras consignadoras y emisoras consignatarias. Estas modificaciones levantaron la prohibición de la difusión con el uso del satélite de comunicaciones (difusión por CS = Satélite de Comunicaciones). El MPT ha dado la certificación a 12 programas de cuatro emisoras de sonido y seis programas de seis emisoras de televisión. Desde abril de 1992, estas emisoras han programado iniciar el servicio de difusión de canales por abono uno tras otro. Todos ellos estarán operando a fines de diciembre de 1993.

Con respecto al uso del satélite que le sigue al BS-3, el MPS planifica la iniciación de las difusiones por este satélite utilizando ocho frecuencias de canal asignados por IFRB. MPT reconoce que deberán decidirse los medios más específicos de ofrecimiento de servicio mediante el uso de este satélite después de identificar plenamente y considerar las tendencias de (1) la demanda del público para los servicios de difusión por satélite; (2) el negocio privado de difusión por satélite y los sistemas de difusión por abono; (3) el desarrollo de la transmisión digital y las tecnologías de compresión de banda; y (4) la difusión de la transmisión de alta definición.

Estos temas fueron discutidos por el Consejo Regulador de Radio desde abril de 1992 y el Consejo elevó en mayo de 1993 el informe sobre las propuestas básicas de las medidas que deberá adoptar el MPT. De acuerdo con el informe, el MPT está considerando las medidas que se tomarán.

Incremento previsto de la cantidad de canales de transmisión por satélite

Satélite	Categoría de difusión	Años fiscales					
		1989	1990	1991	1992	1993	1994
Satélite de difusión	Teledifusión	<u>BS-2b (2 canales)</u>					
		<u>BS-3a (2 canales)</u>					
		<u>BS-3b (1 canal + Hi-Vision)</u>					
Satélite de comunicación	Difusión de sonido	<u>12 canales + α</u>					
	Teledifusión	<u>6 canales + β</u>					

Cantidad de hogares que reciben las transmisiones por satélite

	Total de hogares receptores
Julio de 1989	1.620.000
Marzo de 1990	2.356.000
Marzo de 1991	4.048.000
Marzo de 1992	5.426.000
Marzo de 1993	7.011.000

2. Difusión de la Televisión de Alta Definición (Hi-Vision) (HDTV)

La televisión de alta definición denominada Hi-Vision (HDTV) es un sistema de televisión de alta definición desarrollado por Japón. Se trata de un medio de video avanzado que estará en el centro de las sociedades de información intensiva.

Hi-Vision tiene las siguientes características especiales que no se encuentran en la televisión actual:

- Imagen ancha de grano fino (Normal de película de 35mm. Tiene un ángulo ancho de visión de 30 grados y como resultado, ofrece un alto nivel de realismo al espectador.)
- Gran sensación de presencia (Alta definición que no muestra la granulosidad aun a la distancia de sólo tres veces la altura de la pantalla)
- Sonido dinámico de alta fidelidad (Superior al sonido que satisface las normas de los discos compactos.

El Hi-Vision puede aplicarse no sólo en el campo de la difusión. Como un nuevo medio de video, se espera que cause mayores cambios tanto industrialmente como culturalmente. Podrá tener un amplio uso en áreas como la comunicación, películas, publicidad electrónica, educación y medicina, entre otros.

Con respecto a la difusión del Hi-Vision, el 25 de noviembre de 1991 comenzó la transmisión de prueba de 8 horas diarias (Día de Hi-Vision) utilizando el respondedor del satélite BS-3b, bajo el auspicio de la Asociación de Promoción de Hi-Vision. Además, tuvieron lugar varios eventos incluyendo la Feria de Hi-Vision (1 ~ 15 de junio) y la Semana de Hi-Vision (una semana incluyendo el Día de Hi-Vision) con el fin de intentar la comprensión amplia de la masa de ciudadanos sobre la magnificencia del Hi-Vision.

También ha sido designada la ciudad modelo y el Plan de la Ciudad del Hi-Vision se está promoviendo como proyecto de avanzada para la introducción del Hi-Vision en las áreas urbanas. En varias municipalidades, la introducción de sistemas Hi-Vision basados en las características regionales están avanzando para mejorar el bienestar social.

Breve historia del Hi-Vision

1970	Se inició el desarrollo del Hi-Vision a plena escala.
1977	Se perfeccionó la pantalla de 30".
1982	Se produjo el primer programa experimental de Hi-Vision.
1984	Fue desarrollado el sistema de compresión de banda (MUSE: Codificación por muestreo subnyquist múltiple)
1985	Fue presentado el sistema Hi-Vision ante el público en la Exposición Científica de Tsukuba.
1987	Se realizó con éxito la transmisión experimental con el sistema MUSE a través del satélite BS-2.
1988	Se realizó la transmisión experimental utilizando los satélites de comunicación y cables de fibras ópticas.
1989	Se inició la transmisión experimental de Hi-Vision en horas fijas por el satélite BS-2.
1990	Fue lanzado el satélite BS-3a (Agosto).
1991	Fue lanzado el satélite BS-3b (Agosto). Se inició la transmisión de prueba de Hi-Vision por el satélite BS-3b (25 de noviembre).

3. Desarrollo de la Difusión de Televisión por Cable

La superioridad como medio de televisión por cable se funda en el sistema de canales múltiples y las funciones bidireccionales, y se estima que jugará un papel importante en la creación de las sociedades de información intensiva.

El servicio de "Red de Cable Espacial" que se inició en 1989 con el satélite de comunicaciones, es un servicio que intenta suministrar programas diversificados de televisión a las empresas de televisión por cable en todo el país. Desde que se iniciara este servicio, la televisión por cable ha venido difundiéndose rápidamente en Japón.

Para hacer frente a la futura demanda de servicios de canales múltiples más sofisticados, el MPT está realizando actualmente las investigaciones y desarrollos dirigidos hacia el uso práctico de la televisión por cable de fibras ópticas.

Cantidad de facilidades de televisión por cable y abonados

(A fin de cada año fiscal)

Años fiscales	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992
Cantidad de facilidades	42.190 (152)	44.133 (191)	45.190 (268)	47.337 (331)	50.448 (414)	53.603 (490)	56.437 (563)
Cantidad de abonados (miles de hogares)	4.935 (353)	5.378 (440)	5.775 (614)	6.172 (808)	6.768 (1.019)	7.431 (1.387)	8.334 (1.871)
Tasa de difusión (%)	15,4	16,6	17,6	18,6	20,2	21,9	24,3

Nota: Las cifras entre paréntesis representan las cantidades de facilidades que ofrecen servicios producidos localmente. Las tasas de difusión son las relaciones entre los abonados de televisión por cable con respecto al total de hogares receptores de NHK del año.

Breve historia de la televisión por cable

1951	Entró en vigor la Ley que regula la Operación del Servicio de Difusión de Sonido por Cable.
1955	Entró en operación el primer servicio de televisión por cable.
1963	Entró en operación el primer servicio de producción local.
1972	Entró en vigor la Ley de Difusión de Televisión por Cable.
1980-1985	Se planificó la siguiente televisión por cable de canales múltiples de gran escala con función bidireccional (Televisión del tipo urbano).
1987	Entró en operación la televisión por cable del tipo urbano. La empresa de televisión por cable obtuvo la licencia de Empresa Explotadora de Telecomunicaciones del Tipo I.
1989	Entró en servicio la Red de Cable Espacial con el uso del satélite de comunicaciones.

4. Expansión y Mejoramiento de Programas de Difusión

Mediante la transmisión por satélite, Hi-Vision, televisión por cable de canales múltiples y otros nuevos medios de difusión que entraron en uso práctico, la industria de difusión del Japón pasó a una nueva etapa del desarrollo en torno a los medios múltiples y canales múltiples. Junto con este progreso de la industria, han surgido algunos nuevos problemas incluyendo la dificultad de asegurar suficientemente los recursos humano de buena calidad para la producción de programas de difusión y la falta de espacio de estudios y otras facilidades de producción de programas de difusión. Salvo que se tomen inmediatamente algunas medidas efectivas, podrán transformarse en serios obstáculos para el desarrollo y la difusión estable de la serie de medios de difusión.

Contra este panorama, el MPT ha tomado algunas medidas para impulsar el "Proyecto de Mejoramiento e Incremento de las Facilidades para Promover el Intercambio a través de Programas de Video", tendiente a contribuir en el mejoramiento de la eficiencia de producción de diversos programas de difusión y el "Proyecto de Mejoramiento e Incremento de los Programas de Difusión de Televisión por Cable" tendiente a expandir la serie existente de programas para la difusión de televisión por cable.

La otra proposición importante de la política de difusión es cómo puede asegurarse en todo el país la difusión universal de transmisión, brindando así beneficios plenos y equitativos al público. Pese a que se reconoce que el incremento de los programas de difusión para las personas con impedimentos visuales es esencial para el cumplimiento de tal objetivo, el incremento de tales programas se considera inapropiado debido a las dificultades de lograr la rentabilidad apropiada.

Para remediar este tipo de situación, el MPT puso en vigor en mayo de 1993 la "Ley para Facilitar el Uso de las Comunicaciones y Difusión por Personas Físicamente Discapacitadas para Mejorar Sus Conveniencias" y decidió subsidiar los costos para la producción de programas de difusión, como la difusión explicativa y difusión de títulos para las personas con impedimentos visuales o auditivos.

IV. Contribución a la Revitalización de las Actividades Sociales Regionales a través de la Difusión

A pesar de que el Japón es netamente una sociedad de información avanzada, aún afronta el problema de las diferencias de la cantidad de recepción de canales entre diferentes áreas del país. En ciertas áreas, las personas no pueden aún recibir ningún programa de difusión debido a las montañas u otras condiciones desfavorables de recepción.

Para eliminar esta diferencia regional de oportunidades de recepción de la difusión, el MPT está actualmente acelerando la asignación de frecuencias y la apertura de nuevas estaciones de difusión. Estas actividades tienen como objeto posibilitar que todas las regiones reciban cuatro o más canales privados de televisión terrestre como también la difusión de transmisiones de FM en todo el país.

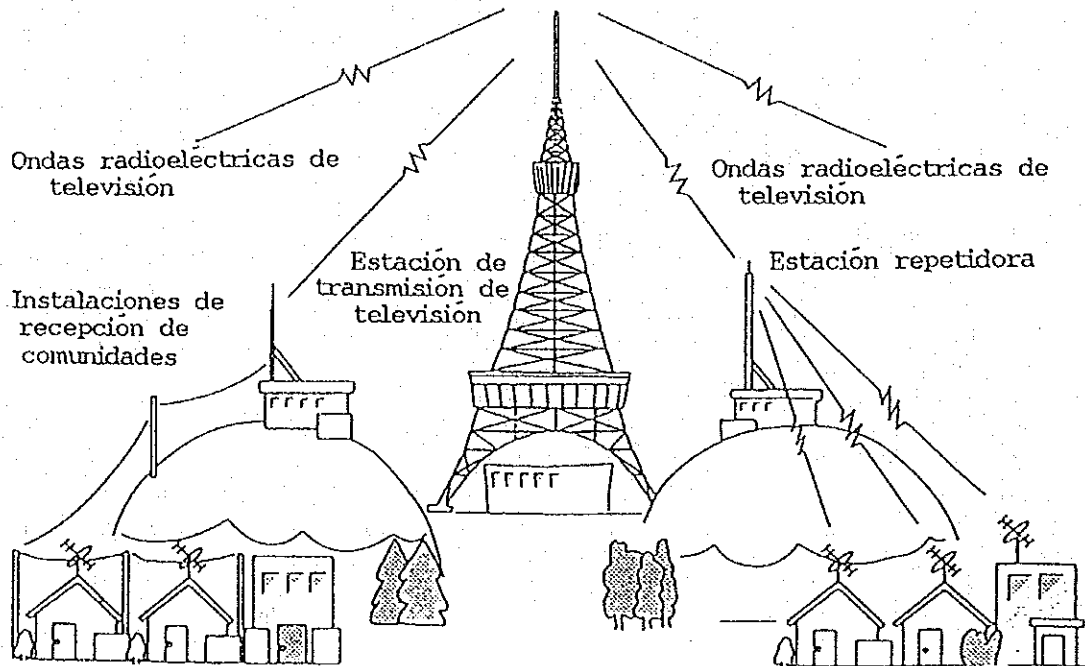
Asimismo, para resolver el problema de la mala recepción de la difusión, el gobierno de Japón ofrece, bajo el compromiso de realizar las inversiones públicas, concesiones para proyectos que instalen las estaciones repetidoras de teledifusión y radiodifusión privada y facilidades de recepción de comunidades para la teledifusión. También fue creada la fundación para subsidiar parcialmente los proyectos de instalación de facilidades de recepción de transmisión por satélite para la difusión por satélite de NHK.

Además, para facilitar las comunicaciones regionales a través de la difusión, el MPT estableció en enero de 1992, un sistema de "Difusión de Comunidad" para algunos municipios, de manera que la información estrechamente ligada a la vida local pueda ofrecerse a través de la transmisión de FM.

En diciembre de 1992, comenzaron a operar las Estaciones de Difusión de la Comunidad, primero en la Ciudad de Hakodate de la Prefectura de Hokkaido, y luego en la Ciudad de Moriguchi de la Prefectura de Osaka en julio de 1993. La tercera epera iniciar sus operaciones en Octubre de 1993 en la Ciudad de Toyohashi de la Prefectura de Aichi.

Concepto del proyecto de eliminación de la mala recepción de la difusión

Concepto del proyecto de eliminación de la mala recepción de la difusión



V. Promoción de Medidas para la Internacionalización a través de la Difusión

En el ámbito de los asuntos internacionales ha estado cambiando dramáticamente. Bajo estas condiciones, se estima que las difusiones en el exterior juegan un papel crucial para la comprensión del Japón en otros países y el suministro de la información esencial a los Japoneses residentes en el exterior.

Por lo tanto, el MPT continua la campaña de lograr transmisiones mejoradas y perfeccionadas en el exterior como una de las políticas más importantes de la política de difusión.

En el año fiscal 1993, el MPT ha incrementado y ha reforzado las transmisiones en el exterior para la parte central y occidental de Estados Unidos, Rusia de extremo oriente (Sakhalin, Provincia Marítima de Siberia y Kamchatka) e Indochina. Al mismo tiempo, el MPT estableció en abril de 1991 el "Centro de Intercambio Internacional de Programas de Difusión", como organización para promover el intercambio internacional de programas de difusión con el objeto de contribuir a una mayor comprensión del Japón y de cooperar en la expansión del desarrollo de la difusión en los países en desarrollo. El Centro está recompaginando los programas de difusión educacional hechos en Japón y ofreciéndolos a los países en desarrollo.

Los recientes progresos de la tecnología satelital han hecho posible la recepción de la "teledifusión transfronteriza" y el público del Japón puede recibir las ondas radioeléctricas de televisión distribuidas por el satélite ASIASAT. Para hacer frente a esta situación, el MPT ha organizado el "Grupo de Estudio sobre Internacionalización de la Difusión" para analizar cómo debe afrontarse la nueva situación emergente.

Estado actual de la retransmisión en el exterior del Japón

Estación retransmisora y facilidades	Cobertura de difusión y horas
*Gabón Estación Transmisora de Moyavi (Operada por Africa N° 1 Co., Ltd.)	Europa, Medio Oriente, Norte de África 9,5h Sur de África 2h Este de África 0,5h
*Canadá Estación Transmisora de Sackville (Operada por Canadian Broadcasting Corp.)	Parte este de Norteamérica 4h Parte Central y Oeste de Norte América 4h
*Guiana Francesa Estación Transmisora de Montsinery (Operada por Radio France International)	América Latina 7,5h
*Sri Lanka Estación Transmisora de Ekala (Operada por Sri Lanka Broadcasting Corp.)	Susoeste de Asia 6h Medio Oriente 4,5h
*Britain Estación Transmisora de Skeleton (Operada por British Broadcasting Corp.)	Europa 10h
*Singapur Estación Transmisora de Singapur (Operada por British Broadcasting Corp.)	Indochina 8h